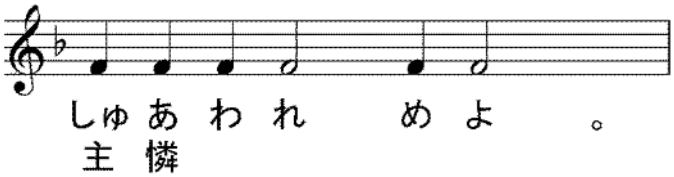
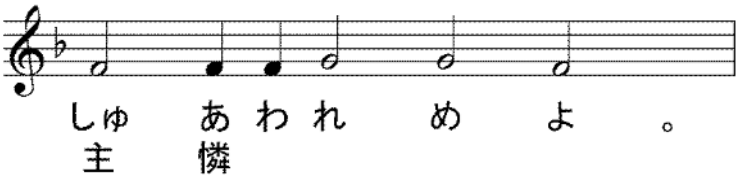
金口イォアン聖体礼儀（輔祭なし）

【　重聯禱　】

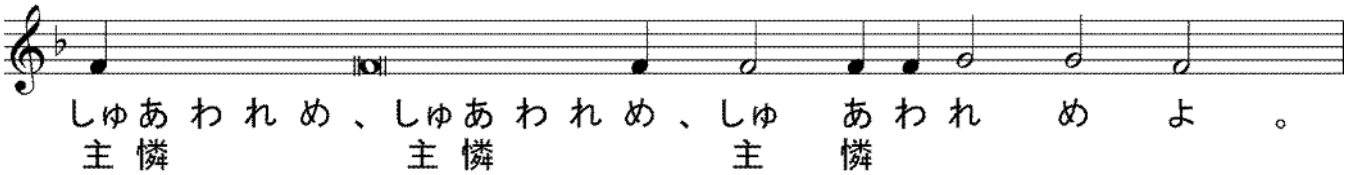
司祭）我等皆　靈　を　全　うして曰わん、我等の　思　を　全　うして曰わん、



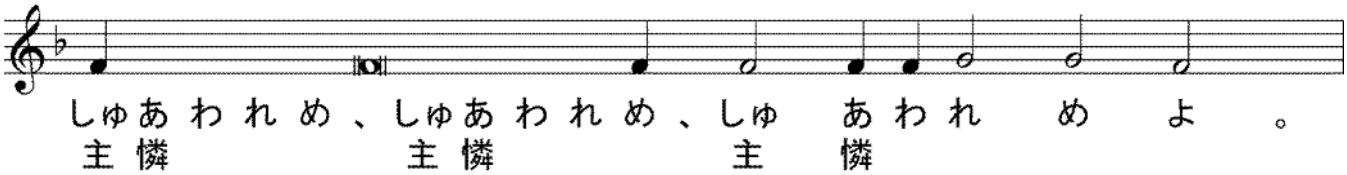
司祭）主 全 能 者、吾が列 祖の神 よ、　爾　に禱 る聆き納れて　憐　めよ、



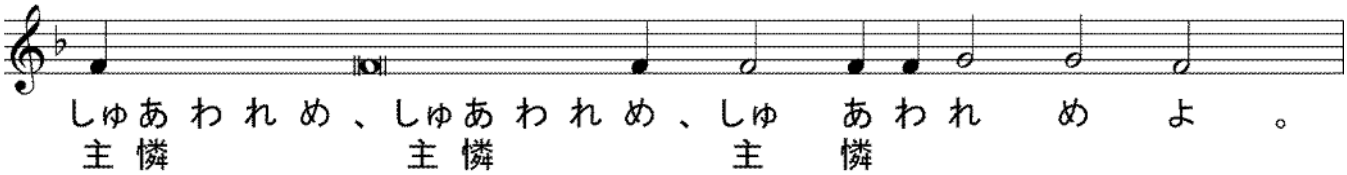
司祭）神 よ、爾　の　大　なる　憐　に因りて我等を　憐　めよ、爾　に禱 る、聆き納れて　憐　めよ、



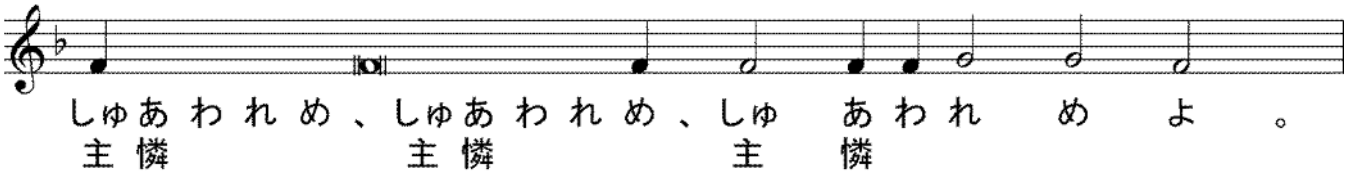
司祭）又我が國の天 皇 及び國を　司　る者の爲に禱 る、



司祭）又　教　會を　司　る尊貴なる我等の全 日 本の府主　教　セラフィム、及びハリストスに於ける　悉　くの我等の兄 弟の爲に禱 る、

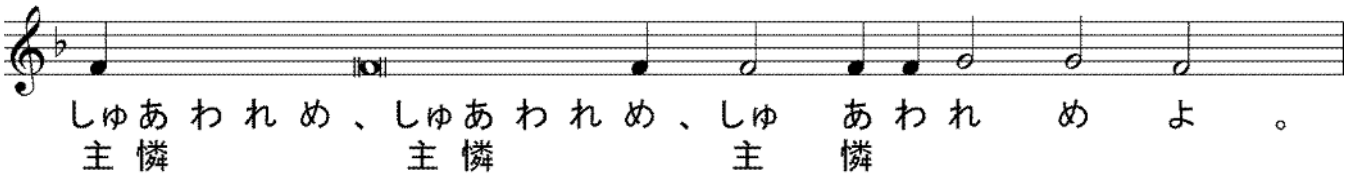


司祭）又 我等の兄 弟、諸司祭、諸　修　道司祭、及びハリストスに於ける我等の　衆　兄 弟の爲に禱 る、

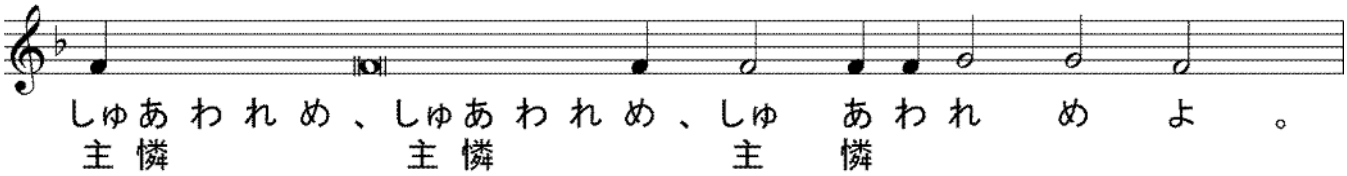


司祭）又 恒に記憶せらるる、福たる至聖なる正　教　の総 主 教、この聖 堂の建　立　者、及び已に寢りし　悉　くの父祖兄 弟、此の　處　と諸 方とに　葬　られたる正　教　の者の爲

に禱る、



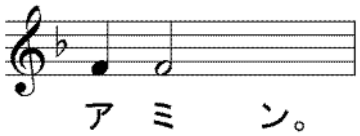
司祭）又此の至尊なる聖堂に物を獻り、善業を行い、之に勞し、之に歌い、及び此に立ちて爾の大にして豐なる憐を仰ぎ望む者の爲に禱る、



（　※　特別な災害や特別な感謝がある時、重聯禱にその旨追加する場合がある。その場合も「主憐め、主憐め、主憐めよ。」と応えて歌う。　）

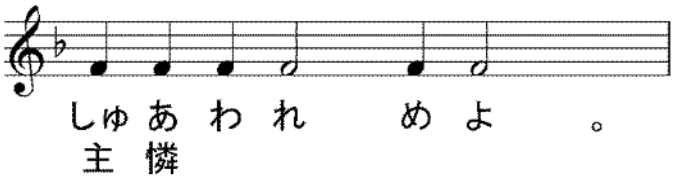
司祭）（　黙誦：主我が神よ、爾の諸僕より此の熱切の祈禱を受け、爾が憐の多きに因りて我等を憐み、爾の惠を我等と凡そ爾の豐なる憐を仰ぐ爾の民に遣し給え、　）

司祭）蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、

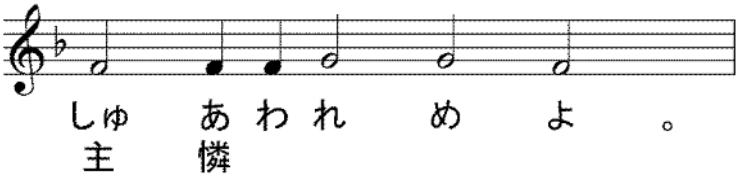


【　啓蒙者の聯禱　】

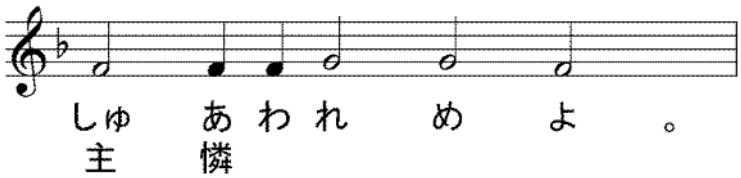
司祭）啓蒙者よ、主に禱るべし、



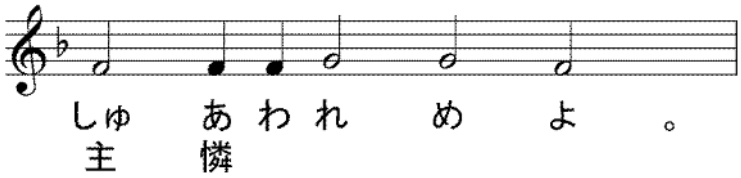
司祭）信者よ、啓蒙者の爲に禱らん、願くは主は彼等に憐を垂れん、



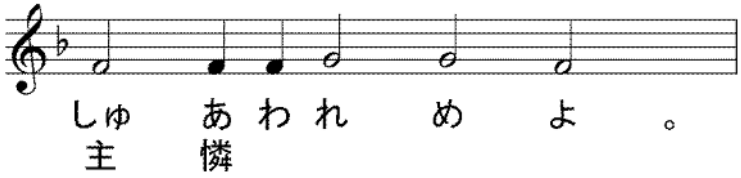
司祭）眞實の言を以て彼等を啓蒙せん、



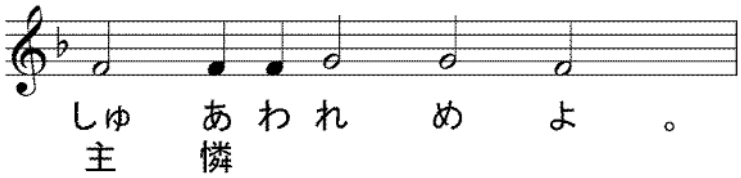
司祭）義の福音經を彼等に啓かん、



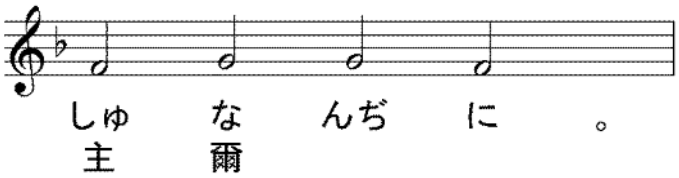
司祭）彼等を其聖・公・使徒の教會に一にせん、



司祭）神よ、爾の恩寵を以て、彼等を救い憐み佑け護れよ、

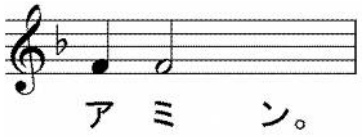


司祭）啓蒙者よ、爾等の首を主に屈めよ、



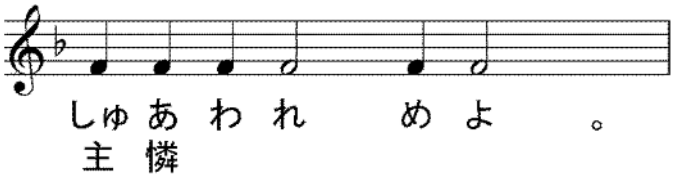
司祭）（ 黙誦：主我が神、高きに居り卑きを臨み、爾の獨生子・神・我が主イイススハリストスを遣して人間の救となしし者よ、爾の僕・啓蒙者・其首を爾に屈めし者を顧み、時に随いて、彼等に復生の浴盤、諸罪の赦、不朽の衣を賜い、彼等を爾が聖・公・使徒の教會に一にし、彼等を爾の選ばれたる群に合せ給え、 ）

司祭）願くは彼等も我等と偕に、爾父と子と聖神の至尊至榮の名を讃揚せん、今も何時も世世に、

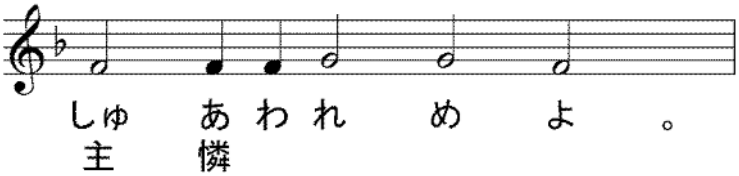


【　信者の聯禱１　】

司祭）衆 啓 蒙 者出でよ、啓 蒙 者出でよ、衆 啓 蒙 者出でよ、啓 蒙 者一人もなく、唯 信 者 復 又 安 和にして主に禱らん、



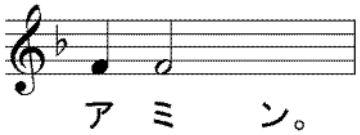
司祭）神よ、爾 の恩 寵 を以て、我等を佑け救い 憐 み護れよ、



司祭）睿智、

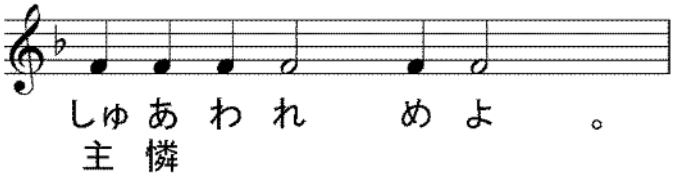
司祭）（　黙誦：主、萬 軍の神や、爾 が我等に、今も 爾 の聖なる祭 壇の前に立ち、爾 の慈憐に俯伏し、我等の罪と 衆 人の 過 との爲に祈禱するを赦し給いしを 爾 に感 謝す、神よ、我等の 禱 を納れ、我等を 爾 が 衆 人の爲に、爾 に 祈 と 願 と無血の 祭 とを獻ずるに勝うる者となし給え、我等 爾 が聖 神の 力 にて此の 爾 の奉事の爲に立てし者を、定 罪なく、躓 なく、其 良 心の 潔 き 證 を以て、何 の時 何 の 處 にも 爾 を籲ぶに適う者となして、爾 我等に聽き、爾 が哀 憐の多きに依りて、我等の爲に仁慈の者となるを致せ、　）

司祭）蓋 凡そ光 榮 尊貴伏 拜は 爾 父と子と聖 神に歸す、今も何時も世世に、

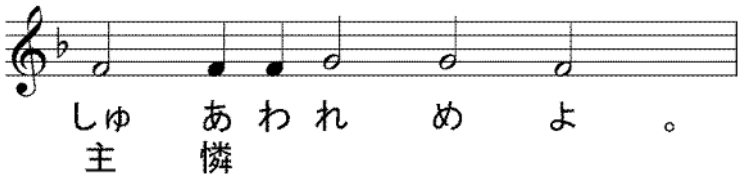


【　信者の聯禱２　】

司祭）我等復 又 安 和にして主に禱らん、



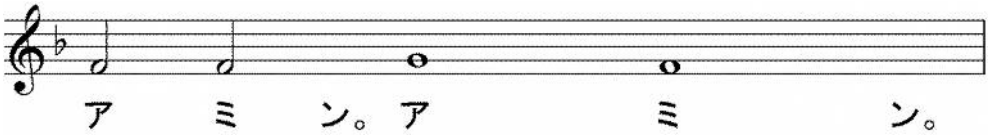
司祭) 神(かみ)よ、爾(なんぢ)の恩寵(おんちょう)を以(もつ)て、我等(われら)を佑(たす)け救(すく)い憐(あわれ)み護(まも)れよ、



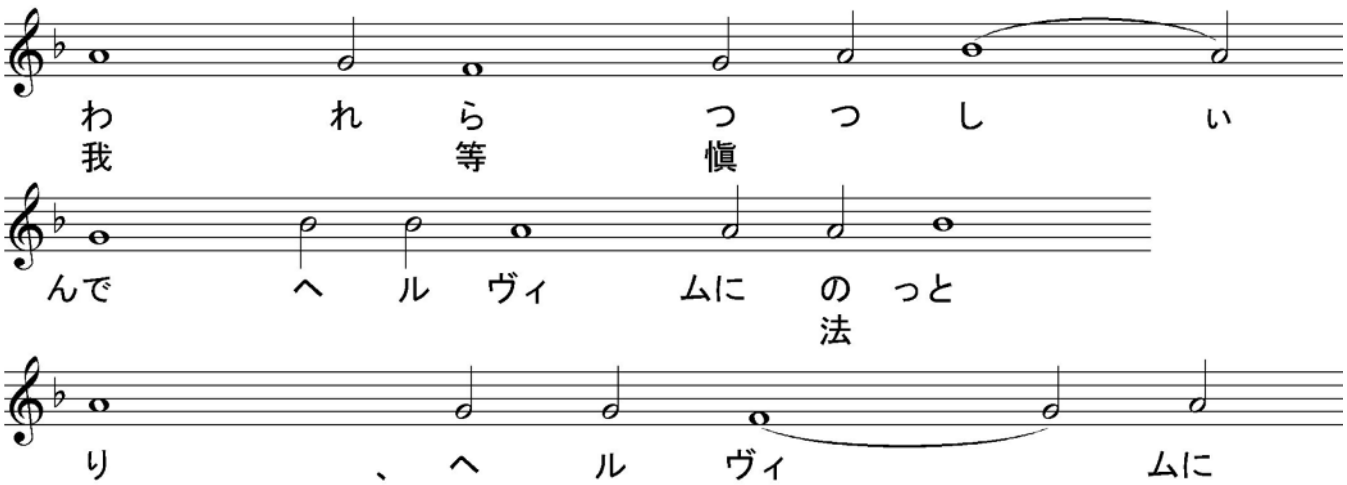
司祭) 睿智(えいち)、

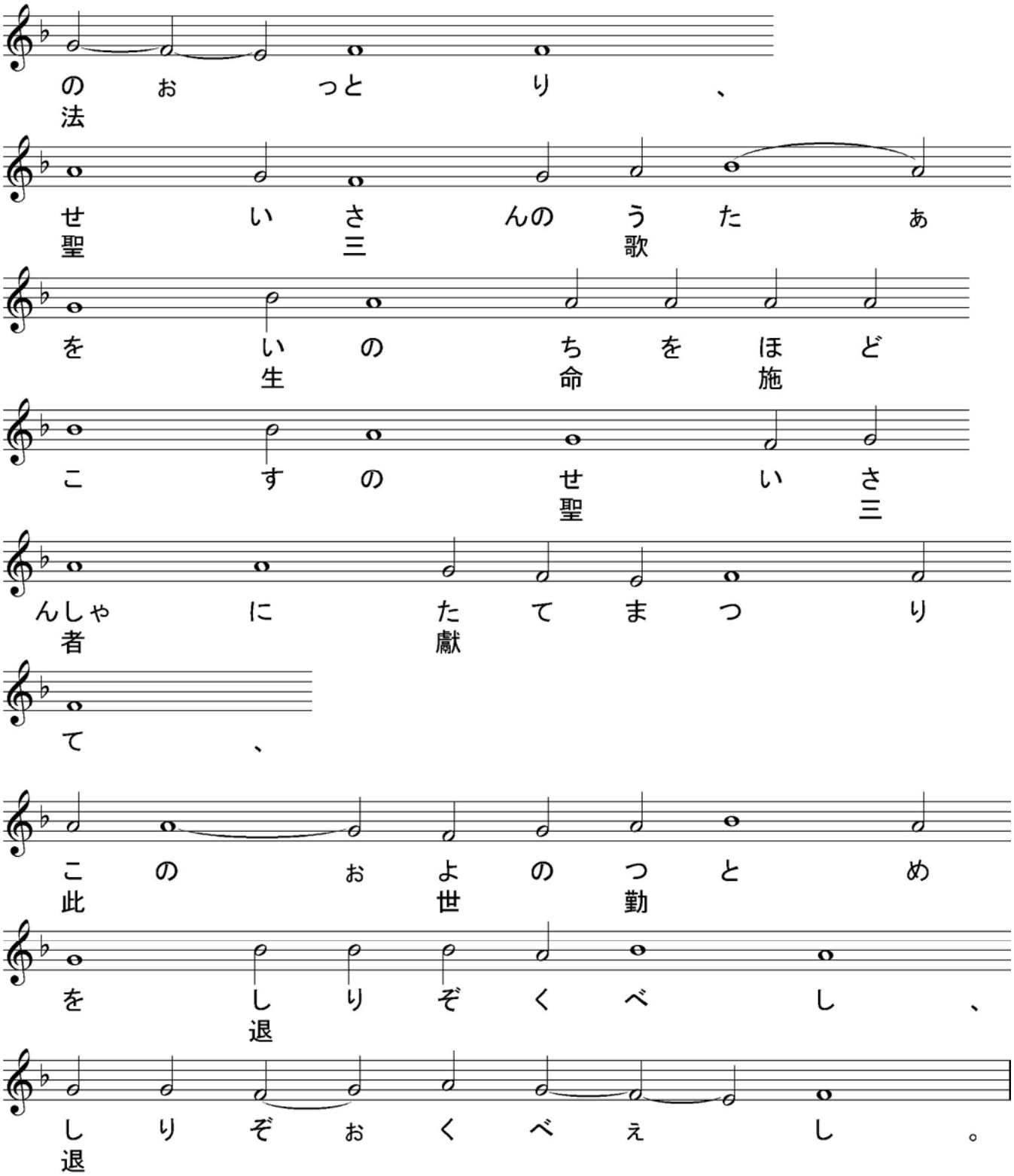
司祭) (黙誦 : 善(ぜん)にして人(ひと)を愛(あい)する主(しゅ)や、我等(われら)復且(またかつ)数(しばしば)爾(なんぢ)に俯伏(ふふく)し、爾(なんぢ)に禱(いの)る、我(われ)等(ら)の禱(いのり)を顧(かえり)みて、我等(われら)の靈(たましい)と體(からだ)とを凡(およ)そ肉體(にくたい)と靈神(れいしん)との穢(けがれ)より潔(いさぎよ)くし、我等(われら)に、玷(きず)なく、定罪(ていざい)なく、爾(なんぢ)の聖(せい)なる祭壇(さいだん)の前(まえ)に立(た)つを賜(たま)え、神(かみ)や、我等(われら)と偕(とも)に祈禱(きとう)する者(もの)にも、生命(いのち)と信(しん)と屬神(ぞくしん)の智識(ちしき)との進歩(しんぽ)を與(あた)え給(たま)え、彼等(かれら)が常(つね)に畏(おそれ)と愛(あい)とを以(もつ)て爾(なんぢ)に務(つと)めて、玷(きず)なく、定罪(ていざい)なく、爾(なんぢ)の聖機密(せいきみつ)を領(う)け、爾(なんぢ)の天國(てんごく)に入(い)るに勝(た)うる者(もの)となるを得(え)せしめ給(たま)え、)

司祭) 我等(われらつね)常に爾(なんぢ)が權柄(けんぺい)の下(もと)に護(まも)られて、光榮(こうえい)を爾(なんぢ)父(ちち)と子(こ)と聖神(せいしん)に獻(けん)ずるが爲(ため)なり、今(いま)も何時(いつ)も世世(よよ)に、



【 ヘルヴィムの歌 】





司祭）（ 默誦：肉體の慾と快樂とに縛られし者は、一も爾光榮の王に來り、或は近づき、或は奉事するに堪うるなし、蓋爾に奉事するは、天軍の爲にも大にして畏るべきなり、然れども爾は言い難く量り難き爾の仁愛に因りて、本性を易えず失わずして人となり、我等の爲に司祭首となり、又萬有の主宰なるに縁りて、我等に此の奉事の無血祭の聖事を傳え給えり、蓋主我が神や、爾は獨天地の事を宰理す、爾はヘルヴィムの寶座に荷わるる者、セラフィ

ムの主、イズライリの王、獨聖にして聖者の中に息う者なり、故に我爾獨善にして善く納るる者に禱る、我罪ありて堪えざる爾の僕を顧み、我が靈と心とを邪なる思慮より淨め、我神品の恩寵を被れる者を、爾が聖神の力に藉りて、此の爾の聖なる食案の前に立ち、爾が至淨なる聖體至尊なる聖血の機密を行うに堪うる者となし給え、蓋我首を屈めて爾に就き、爾に禱る、爾の顏を我より避くる勿れ、我を爾が僕衆の中より却くる勿れ、乃我罪有りて當らざる爾の僕に此の祭物を獻ぐるを致させ給え、蓋ハリストス我が神よ、爾は獻ずる者と獻ぜらる者、受くる者と頒たるる者なり、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに獻ず、今も何時も世世に、　）

司祭）（　黙誦：我等奥密にしてヘルヴィムを像り、聖三の歌を生命を施す三者に歌い、今此の世の慮を悉く退く可し、天使の軍の見えずして荷い奉る萬有の王を戴かんとするに縁る、アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。我等奥密にしてヘルヴィムを像り、聖三の歌を生命を施す三者に歌い、今此の世の慮を悉く退く可し、天使の軍の見えずして荷い奉る萬有の王を戴かんとするに縁る、アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。我等奥密にしてヘルヴィムを像り、聖三の歌を生命を施す三者に歌い、今此の世の慮を悉く退く可し、天使の軍の見えずして荷い奉る萬有の王を戴かんとするに縁る、アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。

神よ、我罪人を淨め給え、神よ、我罪人を淨め給え、神よ、我罪人を淨め給え、　）

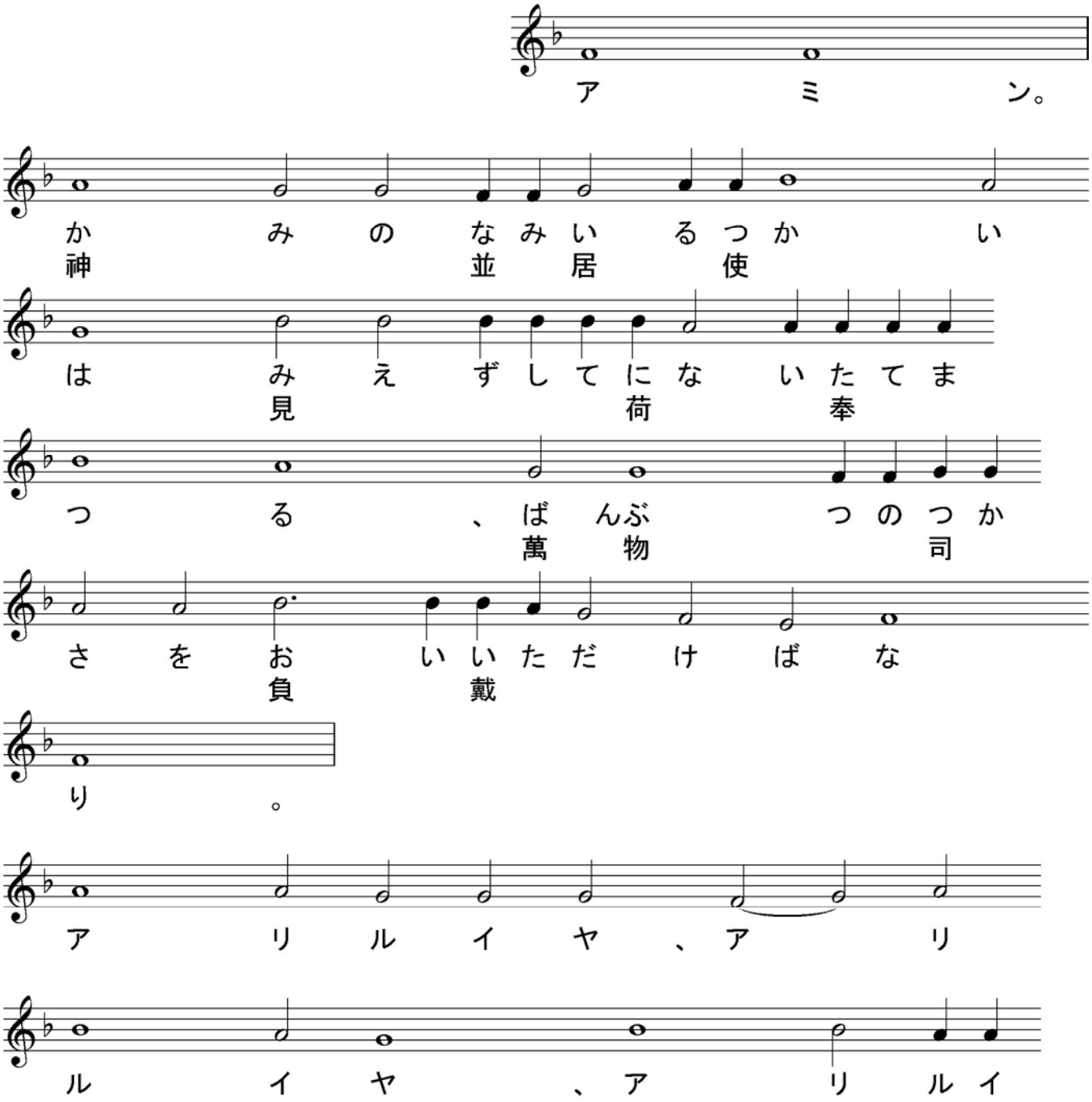
【　大聖入　】

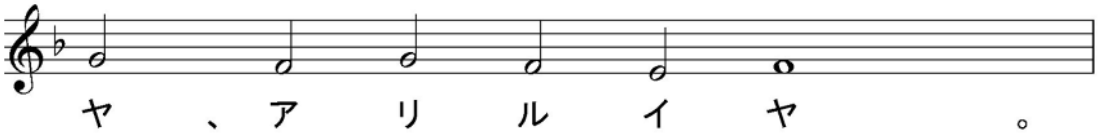
司祭）**願くは主・神は其國に於て、我が國の天皇及び國を司る者を恒に記憶せん、今も何時も世世に、**

願くは主・神は其國に於て、教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィムを恒に記憶せん、今も何時も世世に、

願くは主・神は其國に於て、已に寢りし府主教セルギイ、府主教イリネイ、府主教ウラディミル、府主教フェオドシイ、府主教ダニイル、大主教ニコライ、主教ニコライ、主教ペトル、（及び殊に記憶せらるる某）我等の已に寢りし家族、兄弟姉妹、諸の縁者、朋友等を恒に記憶せん、今も何時も世世に、

願くは主・神は其國に於て、爾衆正教のハリスティアニン等（及び殊に記憶せらるる某）を恒に記憶せん、今も何時も世世に、





司祭）（ 黙誦：尊きイオシフは爾の潔き身を木より下し、浄き布に裏み、香料にて覆い、新なる墓に藏めり、

ハリストスよ、爾は神なるにより、體にて墓に在り、靈にて地獄に在り、右盜と偕に天堂に在り、父と聖神と共に寶座に在り、限なき者として一切を滿て給えり、

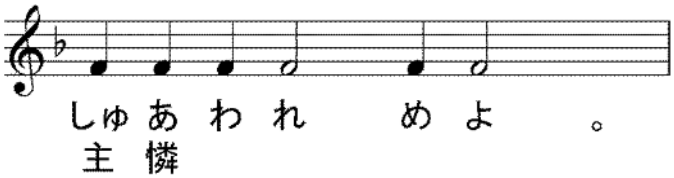
ハリストスよ、我が復活の泉たる爾の墓は、生命を施す者、地堂より美しき者、実に如何なる王の宮よりも耀ける者と顯れたり、

尊きイオシフは爾の潔き身を木より下し、浄き布に裏み、香料にて覆い、新なる墓に藏めり、

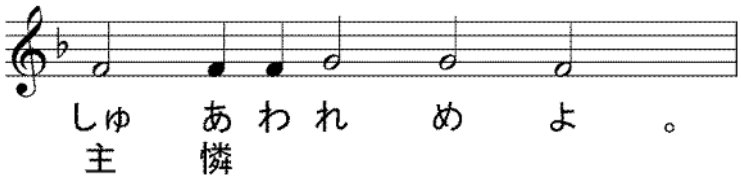
主よ、爾の惠に因りて恩をシオンに垂れ、イェルサリムの城垣を建て給え、其時に爾義の祭、獻物と燔祭を喜び饗けん、其時に人人爾の祭壇に犢を奠えんとす、 ）

【 増聯禱 】

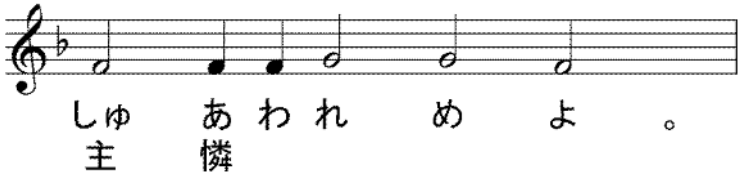
司祭）我等主の前に吾が禱を増し加えん、



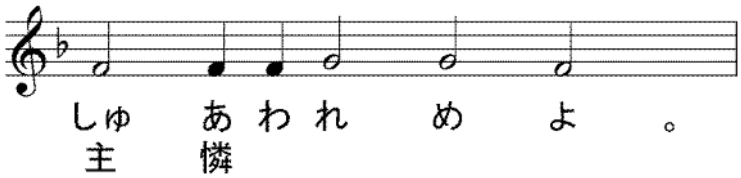
司祭）獻げたる尊き祭品の爲に主に禱らん、



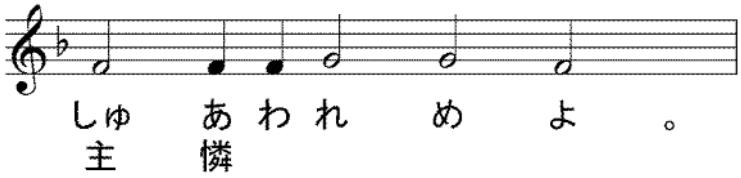
司祭）此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に來る者の爲に主に禱らん、



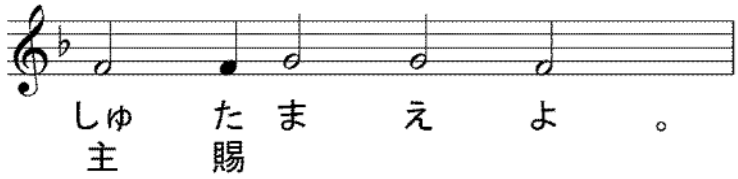
司祭) 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



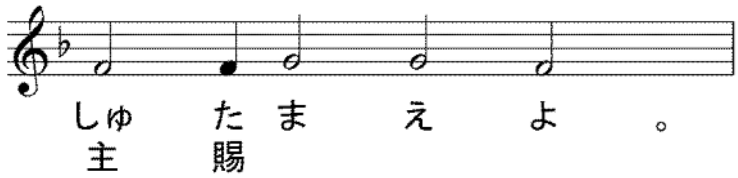
司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



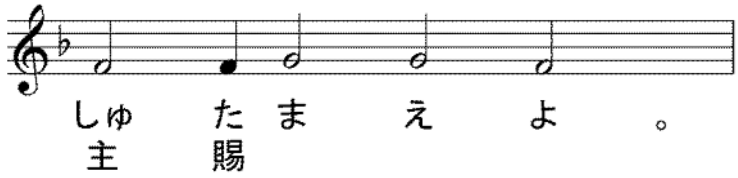
司祭) 此の日の純全・成聖・平安・無罪ならんことを主に求む、



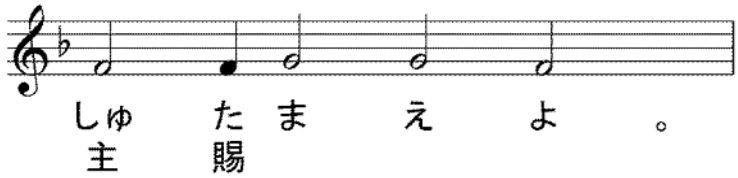
司祭) 平安の天使、正しき教導師、吾が靈體の守護者を賜わんことを主に求む、



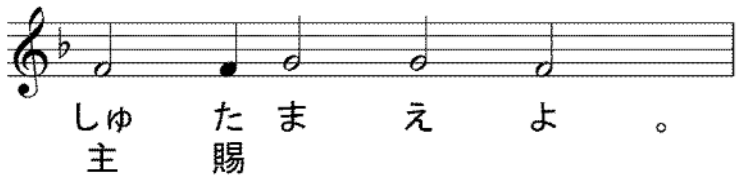
司祭) 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、



司祭) 我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜わんことを主に求む、

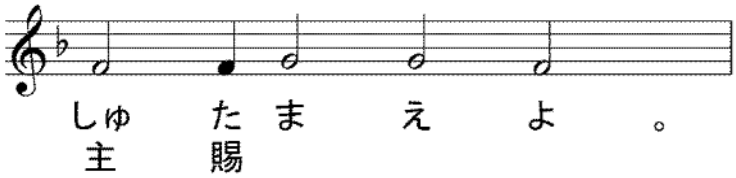


司祭) 我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、

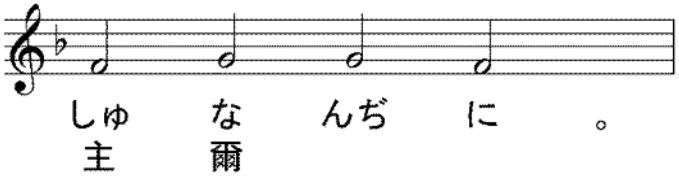


司祭) 我等の生命の終がハリスティアニンに適い、疾なく、耻なく、平安なること、及び

ハリストスの畏るべき審判に於て宜しき對をなすを賜わんことを求む、

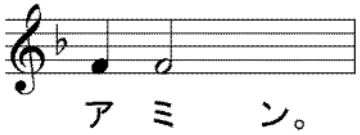


司祭）至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



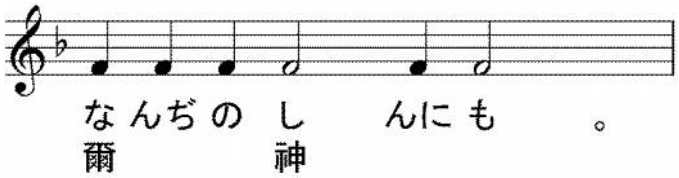
司祭）（　黙誦：主・神・全能者、獨聖にして心を盡して爾を籲ぶ者より讃美の祭を受くる者よ、我等罪人の禱をも受けて爾の聖なる祭壇に携え、我等を、我が罪と衆人の過との爲に、爾に獻物と屬神の祭とを獻ずるに勝うる者となし給え、我等に爾の前に恩寵を得せしめて、我等の祭は爾に善く納れらる者となり、爾が恩寵の善神は臨みて、我等の中と此の供えられたる祭品と爾の衆人とに居るを致させ給え、　）

司祭）爾の獨生子の慈憐に因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に崇め讃めらる、今も何時も世世に、

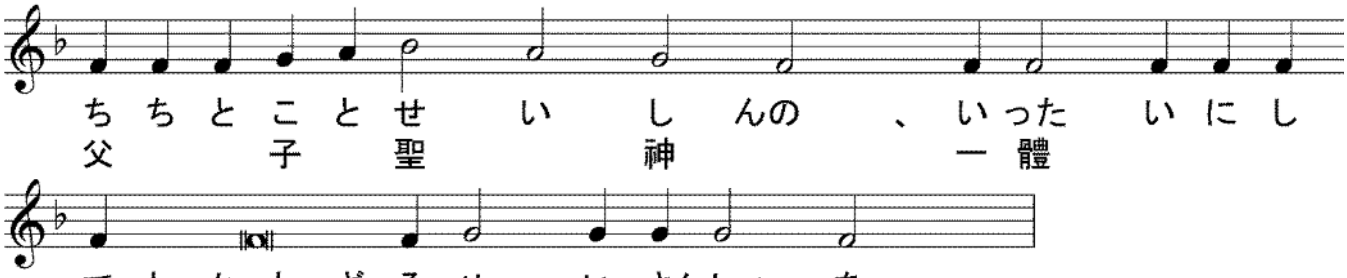


【　ニケア・コンスタンチヌーポリ全地公会にて採択されし信經　】

司祭）衆人に平安、

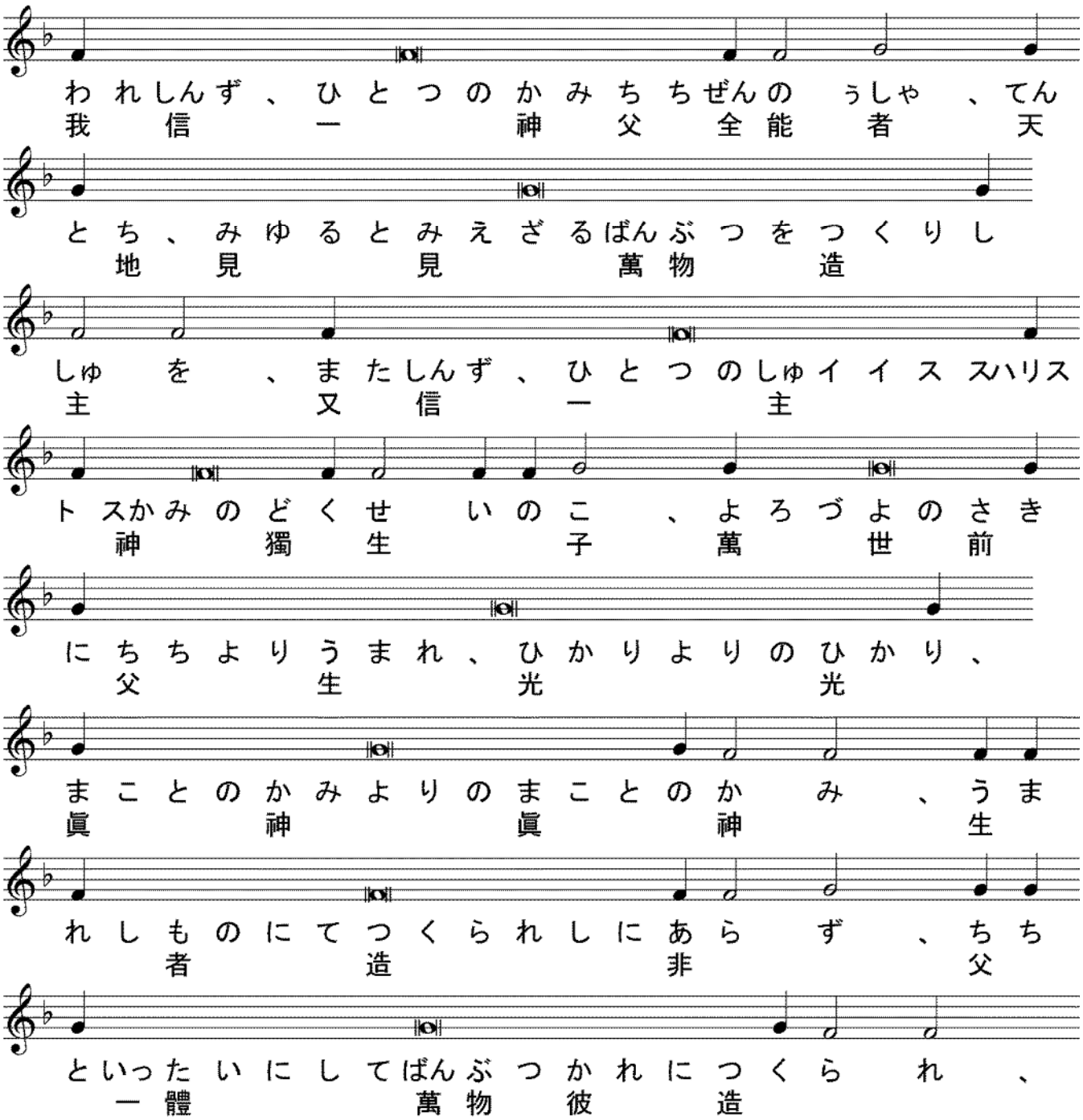


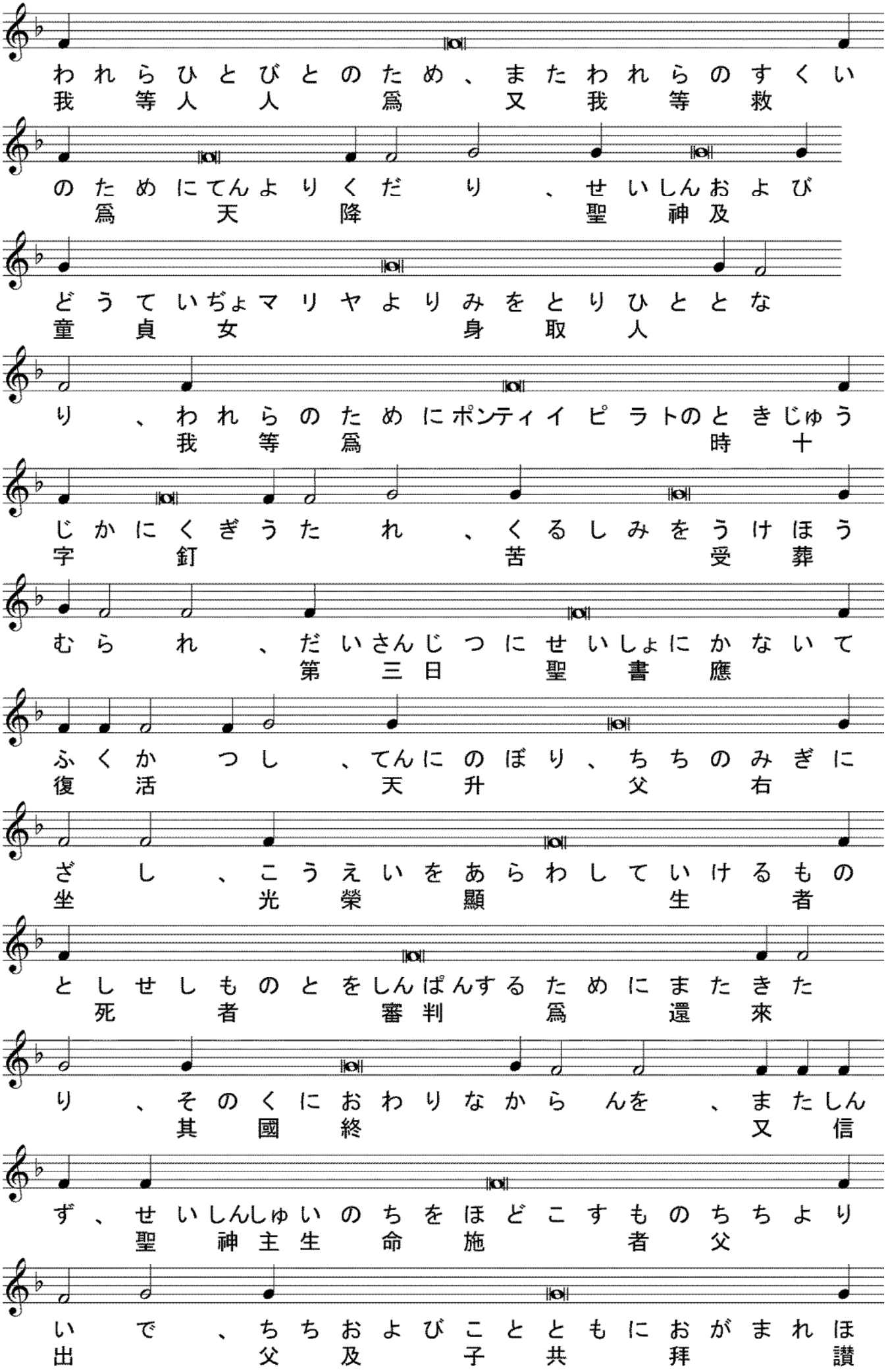
司祭）我等互に相愛すべし、同心にして承け認めんが爲なり、

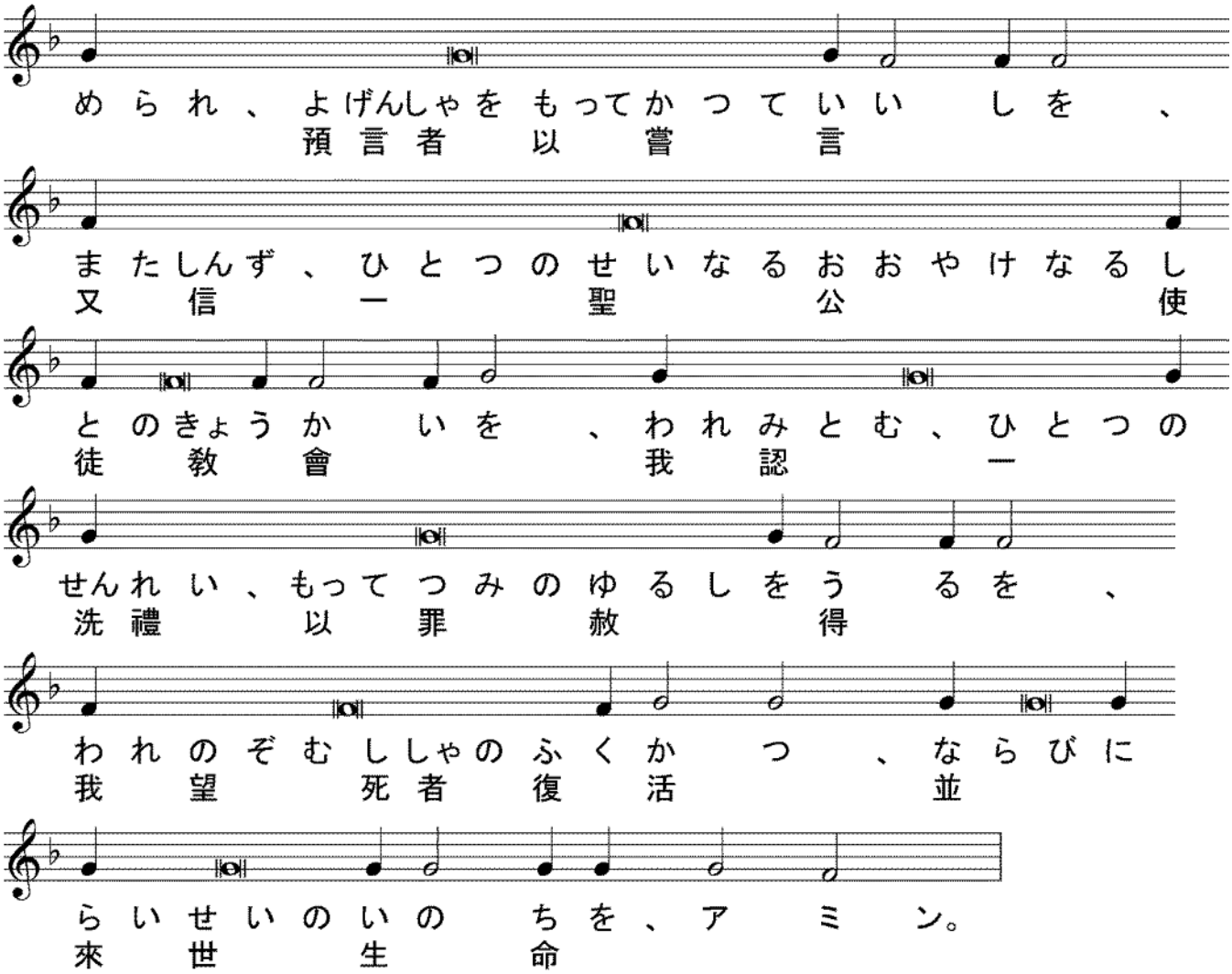


司祭)（ 黙誦：主我の力よ、我爾を愛せん、主は我の防固、我の避所なり、主我の力よ、我爾を愛せん、主は我の防固、我の避所なり、主我の力よ、我爾を愛せん、主は我の防固、我の避所なり、 ）

司祭) 門、門、敬みて聽くべし、

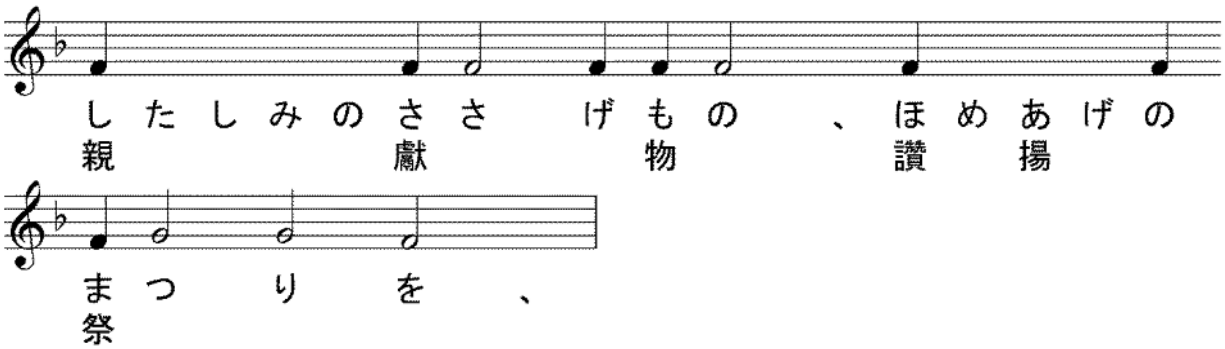



われらひとびとのため、またわれらのすくい
我等人人爲又我等救
のためにてんよりくだり、せいしんおよび
爲天降聖神及
どうていぢょマリヤよりみをとりひととな
童貞女身取人
り、われらのためにポンティイピラトのときじゅう
我等爲時十
じかにくぎうたれ、くるしみをうけほう
字釘苦受葬
むられ、だいさんじつにせいしょにかないて
第三日聖書應
ふくかつし、てんにのぼり、ちちのみぎに
復活天升父右
ざし、こうえいをあらわしていけるもの
坐光榮顯生者
としせしものとをしんぱんするためにまたきた
死者審判爲還來
り、そのくにおわりなからんを、またしん
其國終又信
ず、せいしんしゅいのちをほどこすものちちより
聖神主生命施者父
いで、ちちおよびこととともにおがまれほ
出父及子共拜讃

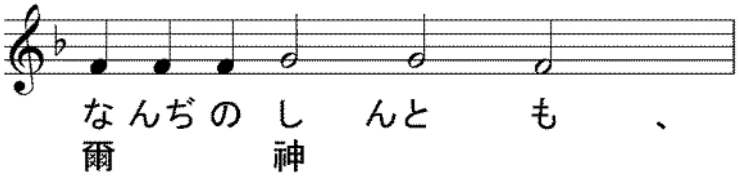


【　アナフォラ　】

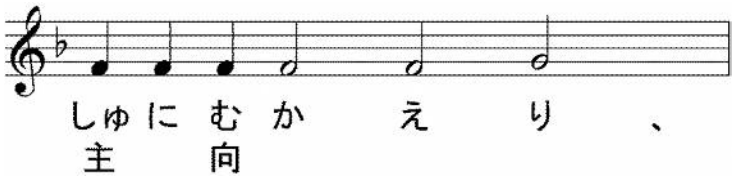
司祭）正しく立ち、畏れて立ち、敬みて安和にして聖なる獻物を奉らん、



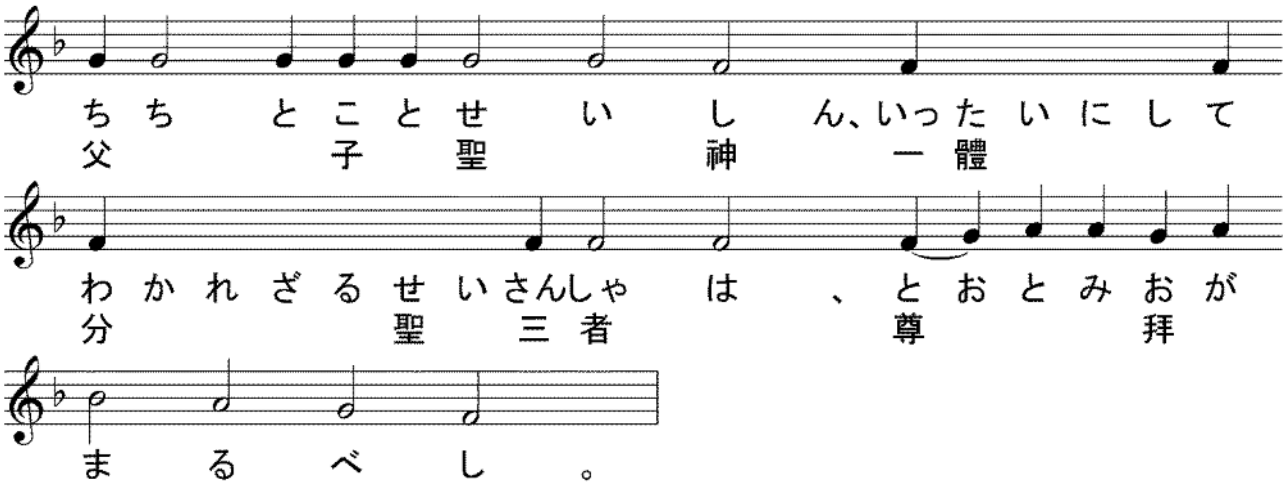
司祭）願くは我が主イイススハリストスの恩、神父の慈、聖神の親は、爾衆人と偕に在らんことを、



司祭）心上に向うべし、

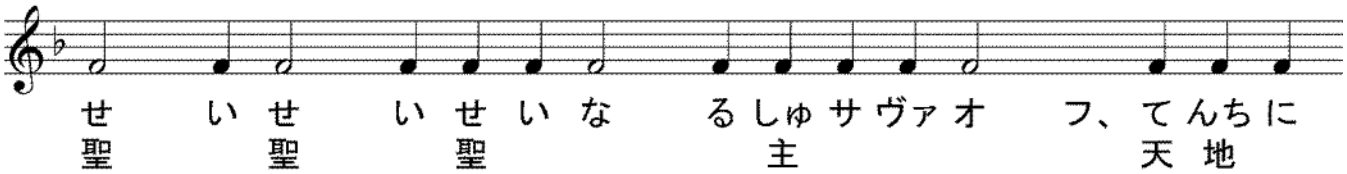


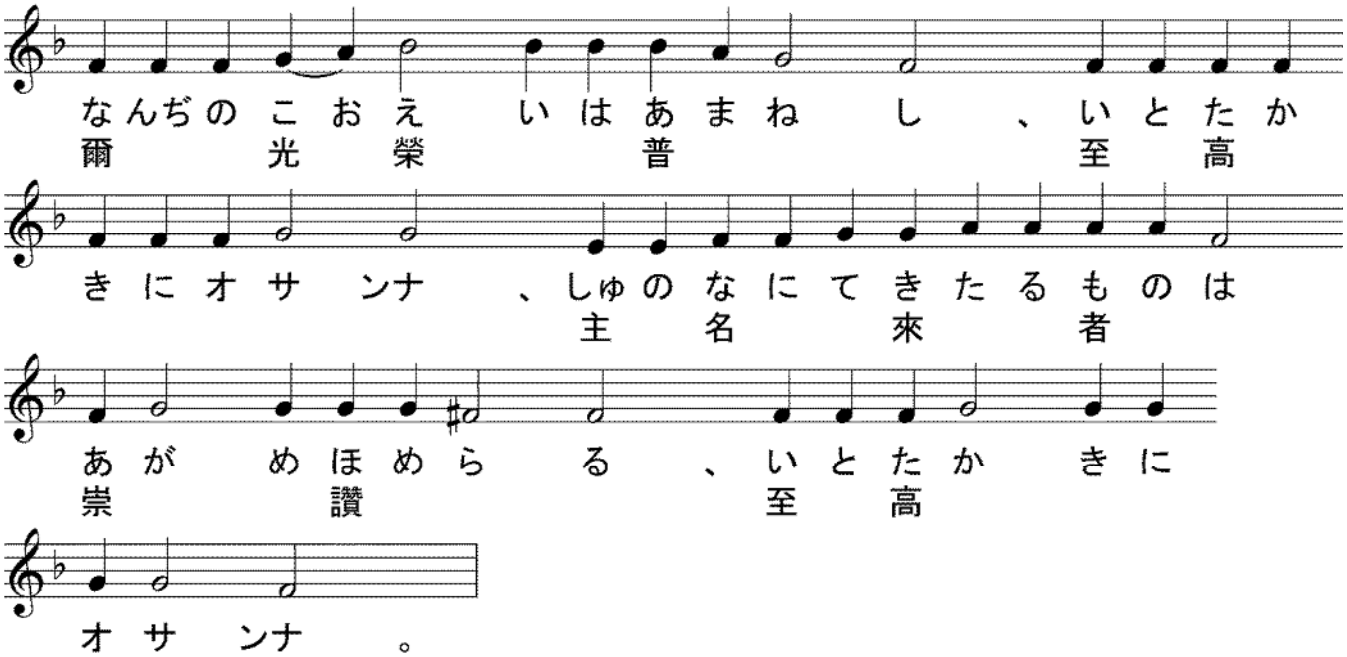
司祭) 主に感謝すべし、



司祭) (默誦: 爾を歌頌し、爾を讃揚し、爾を讃美し、爾に感謝し、爾が一切治むる處に於て爾に伏し拜むは當然にして義なり、蓋爾と爾の獨生子と爾の聖神は、言い難く、知り難く、見る可からず、測る可からず、永く在り、恒に變らざる神なり、爾は我等を無より有となし、陷りし者を復起し、及び我等を天に升らしめて、爾が來世の國を賜うに至るまで萬事を行いて止めず、此等の爲に、凡そ我等が知る所、知らざる所、顯れし所、顯れざりし所の我等に賜わりし諸恩の爲に、我等爾と爾の獨生子と爾の聖神とに感謝す、又此の奉事の爲に爾に感謝す、爾之を我等の手より領くるを甘じ給えり、然れども千千の天使首及び萬萬の天使、ヘルヴィム及びセラフィム、六翼の者、多目の者、高く翔る者、翼を具うる者は爾の前に立ちて、)

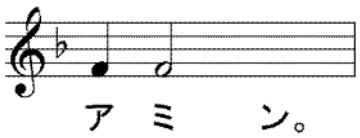
司祭) 凱歌を歌い、籲び、叫びて曰う、





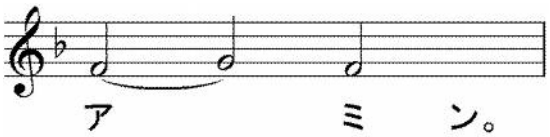
司祭）（ 黙誦：人を愛する主宰よ、我等も此の福たる軍と偕に籲びて曰う、聖なる哉、至聖なる哉、爾と爾の獨生子と爾の聖神、聖なる哉、至聖なる哉、爾の光榮は威厳なり、爾は爾の世界を愛して、爾の獨生子を賜うに至り、凡そ之を信ずる者に沈淪を免れて永生を得せしむ、彼來りて、凡そ我等に於ける定制を成全し、付されし夜、正しく言えば親ら己を世界の生命の爲に付しし夜、其聖にして至淨無玷なる手に餅を取り、感謝し、祝讃し、成聖し、擘きて其聖なる門徒及び使徒に予えて曰えり、 ）

司祭）取りて食え、是我が體、爾等の爲に擘かるる者、罪の赦を得るを致す、



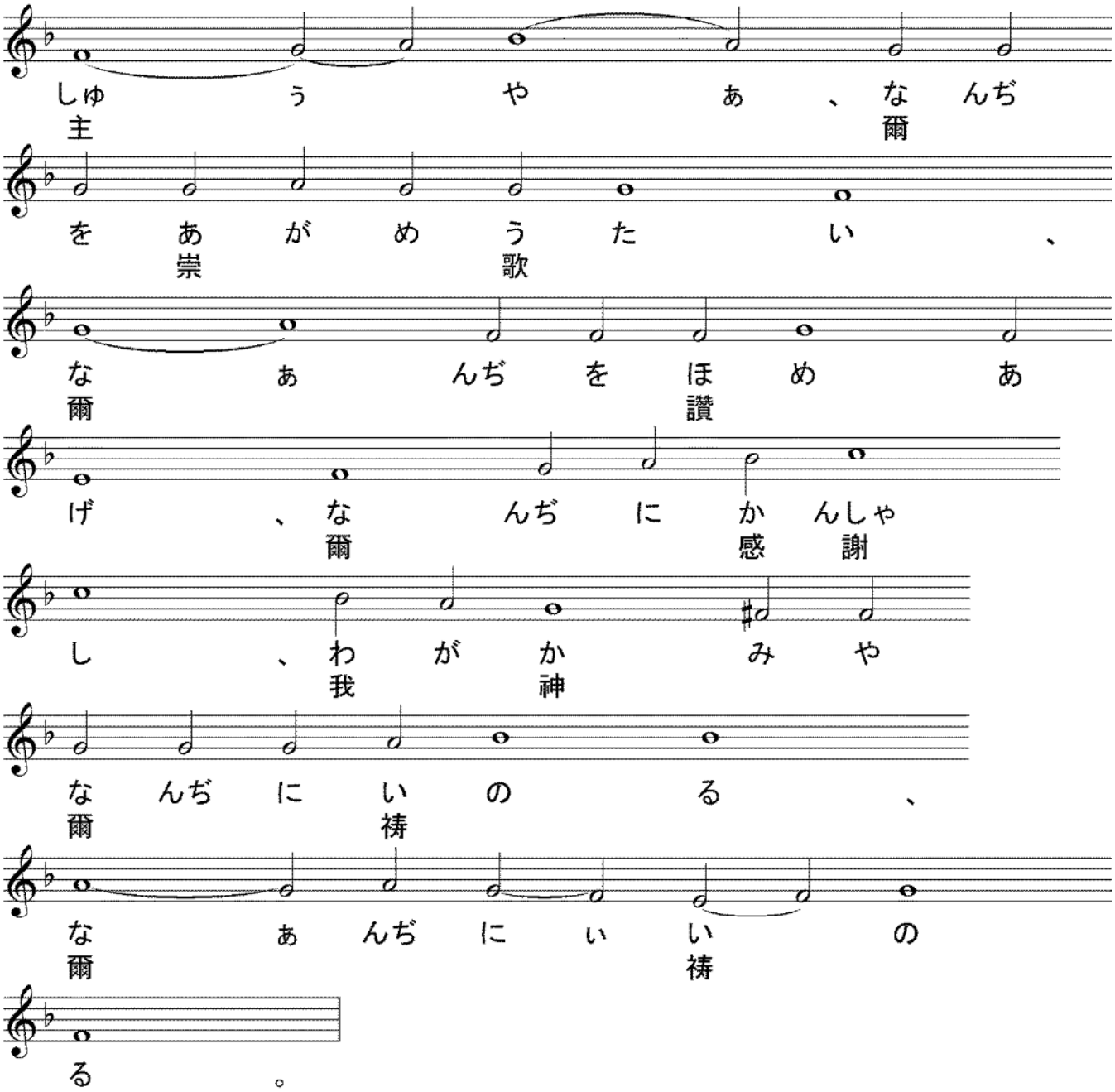
司祭）（ 黙誦：同く晩餐の後に爵を執りて曰く、 ）

司祭）皆之を飲め、是我の新約の血、爾等及び衆くの人の爲に流さるる者、罪の赦を得るを致す、



司祭)（ 黙誦：故に我等此の救を施す誠、及び凡そ我等の爲に有りし事、即十字架、墓、第三日の復活、天に升る事、右に坐する事、光榮なる再度の降臨を記憶して、 ）

司祭) **爾の賜を、爾の諸僕より、衆の爲一切の爲に爾に獻りて、**



司祭)（ 黙誦：我等復爾に此の靈智なる無血の奉事を獻じて、願い祈り切に求む、爾の聖神を我等及び此の奠えたる祭品に遣し給え、 ）

司祭)（ 黙誦：第三時に爾の至聖神を爾の使徒に遣わしし至善の主よ、之を我等より取り上ぐること勿れ、尚我等爾に祈る者の衷に之を新にせよ、神よ、潔

き心を我に造り、正しき靈を我の衷に改め給え、

第三時に爾の至聖神を爾の使徒に遣わしし至善の主よ、之を我等より取り上ぐること勿れ、尚我等爾に祈る者の衷に之を新にせよ、我を爾の顔より逐うこと勿れ、爾の聖神を我より取り上ぐること勿れ、

第三時に爾の至聖神を爾の使徒に遣わしし至善の主よ、之を我等より取り上ぐること勿れ、尚我等爾に祈る者の衷に之を新にせよ、　）

司祭）**此の餅を将て、爾のハリストスの尊體と成し、アミン。**

此の爵中の者を将て、爾のハリストスの尊血と成し、アミン。

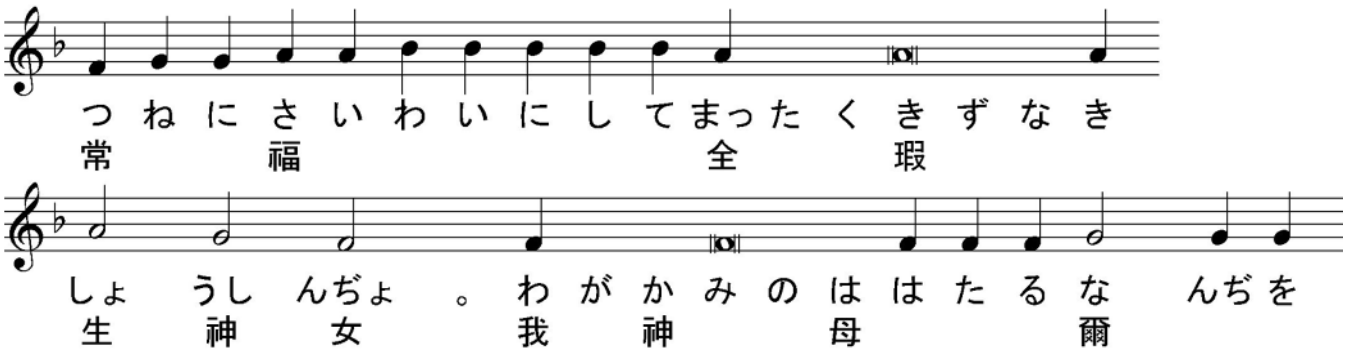
爾の聖神を以て之を變化せよ、アミン。アミン。アミン。

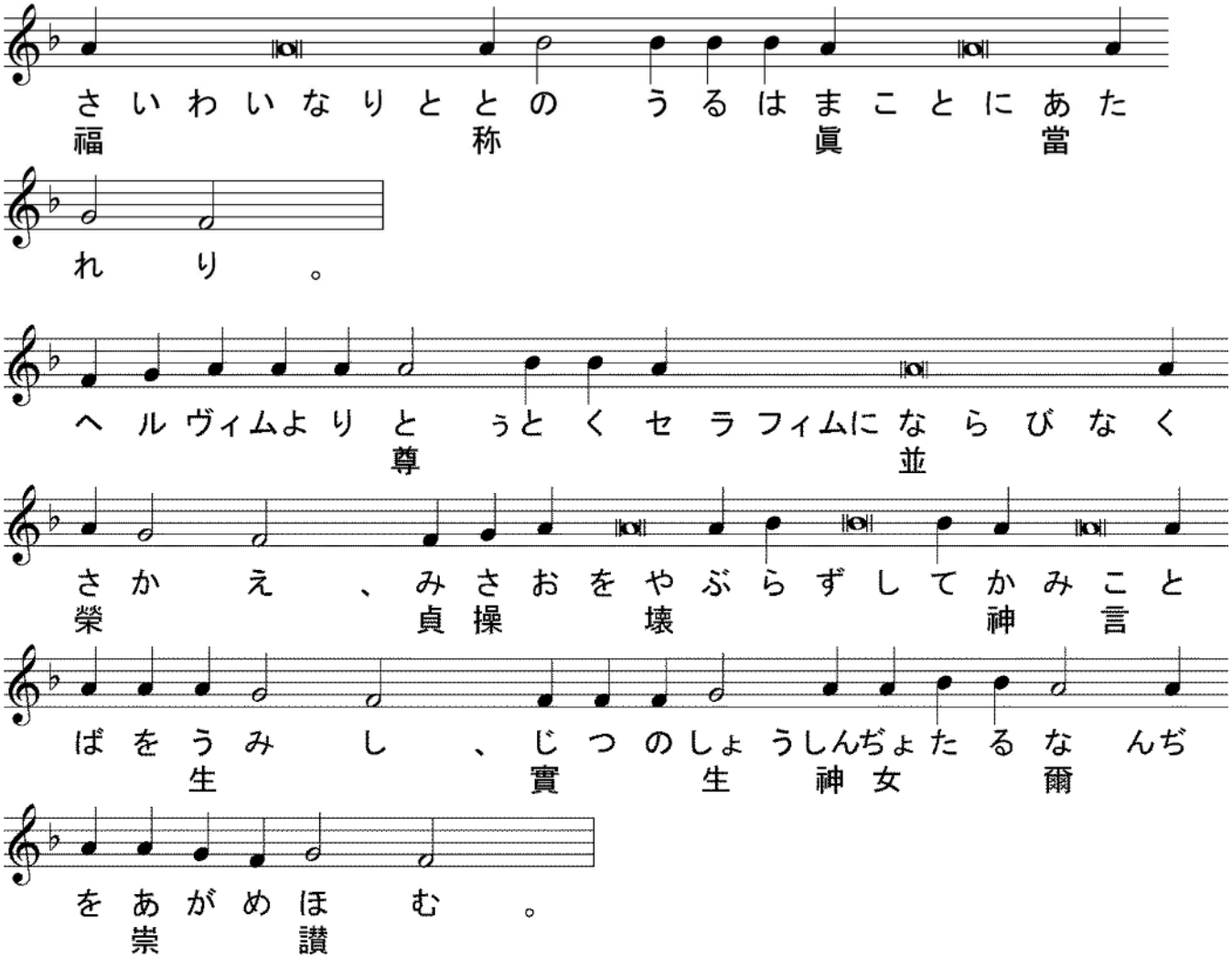
（　黙誦：願くは此は領くる者の爲に、靈の警醒となり、諸罪の赦となり、爾が聖神の體合となり、天國を得ることとなり、爾に於ける勇敢となり、審案或は定罪とならざらんことを、

又この靈智なる奉事を、信を以て寝りし元祖・列祖・太祖・預言者・使徒・傳道者・福音者・致命者・表信者・節制者、及び凡そ信を以て終りし義なる靈の爲に爾に獻ず、　）

司祭）**特に至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤの爲、**

【　常に福　】





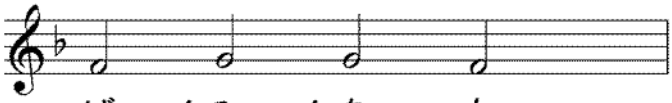
司祭)（ 黙誦：聖預言者・前駆・授洗イォアン、光榮にして讃美たる聖使徒、及び爾が諸聖人の爲に獻ず、神よ、彼等の祈禱に因りて我等を顧み、並に凡そ永生の復活の望を懷きて寢りし者を記憶して、彼等を爾が顏の光の照す所に安息せしめ給え、

又爾に禱る、主よ、爾が眞實の言を正しく傳うる正教者の凡の主教品、凡の司祭品、ハリストスに因る輔祭品、及び悉くの神品を記憶せよ、

又此の靈智なる奉事を、全世界の爲、聖・公・使徒の教會の爲、潔淨にして尊く生を度る者の爲、我が國の天皇及び國を司る者の爲に爾に獻ず、主よ、彼等に泰平の國政を賜え、我等も彼等の平和により、凡の敬虔と潔淨とを以て、恬靜安然にして生を度らんが爲なり、）

司祭) 主よ、殊に教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィムを記憶し、

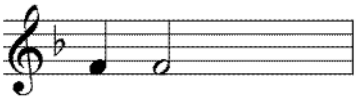
彼等を平安・無難・尊貴・壮健・長壽なる者、及び爾が眞實の言を正しく傳うる者として、爾の聖なる教會に與え給え、



ば　んみ　んを　も　。
萬　民

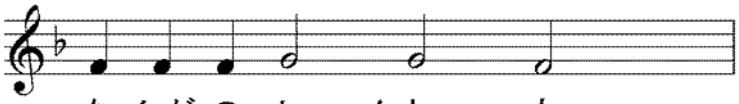
司祭）（　黙誦：主よ、我等が居る所の此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て此の中に居る者を記憶せよ、主よ、航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び彼等の救を記憶せよ、主よ、爾の諸聖堂に物を獻り、善業を行う者、及び貧者を記念する者を記憶し、及び我等衆人に爾の憐を垂れ給え、　）

司祭）並に我等に、口を一にし心を一にして、爾父と子と聖神の至尊至厳の名を讃榮讃頌するを賜え、今も何時も世世に、



ア　ミ　ン。

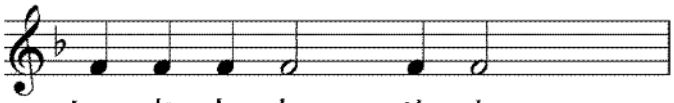
司祭）願くは大なる神、我が救主イイススハリストスの憐は、爾衆人と偕に在らんことを、



なんぢの　し　んと　も　、
爾　神

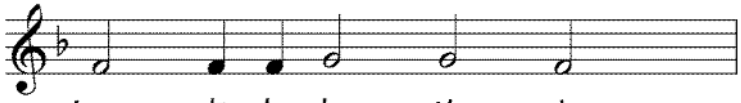
【　増聯禱　】

司祭）我等諸聖人を記憶して、復又安和にして主に禱らん、



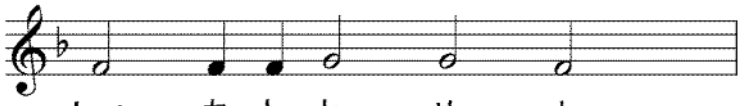
しゅあ　わ　れ　め　よ　。
主　憐

司祭）已に獻ぜられ及び聖にせられし尊き祭品の爲に主に禱らん、



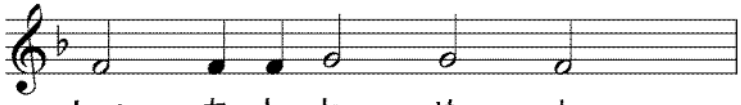
しゅ　あ わ れ　め　よ　。
主　憐

司祭）人を愛する我が神が、之を其聖なる天上の無形の祭壇に置き、屬神の馨香として享け、我等に報いて、神妙の恩寵と聖神の賜とを降すが爲に禱らん、



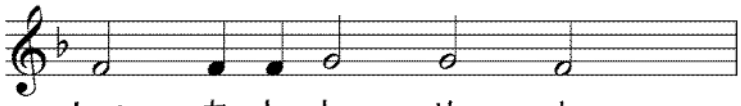
しゅ　あ わ れ　め　よ　。
主　憐

司祭）我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



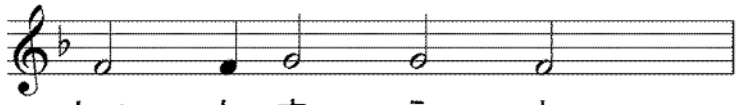
しゅ　あ わ れ　め　よ　。
主　憐

司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



しゅ　あ わ れ　め　よ　。
主　憐

司祭）此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、



しゅ　た ま　え　よ　。
主　賜

司祭）平安の天使、正しき教導師、吾が靈體の守護者を賜わんことを主に求む

しゅ　た ま　え　よ　。
主　賜

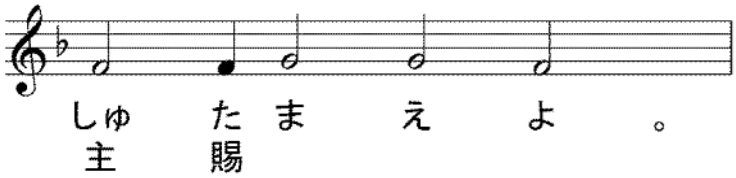
司祭）我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、

しゅ　た ま　え　よ　。
主　賜

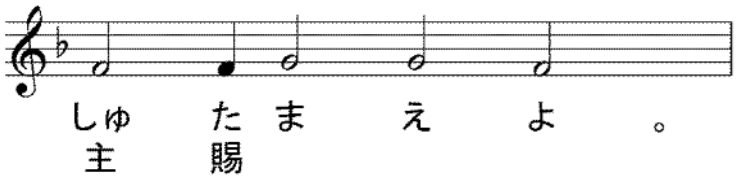
司祭）我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜わんことを主に求む、

しゅ　た ま　え　よ　。
主　賜

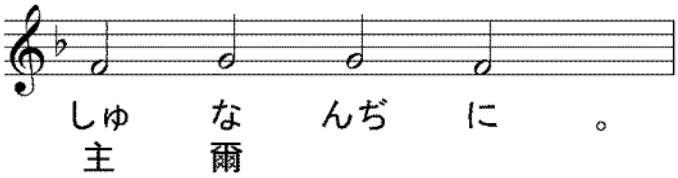
司祭）我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、



司祭）我等の生命の終がハリスティアニンに適い、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏るべき審判に於て宜しき對をなすを賜わんことを求む、



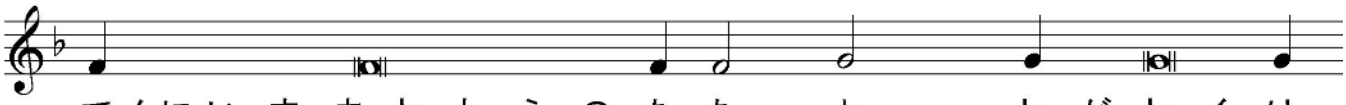
司祭）信の同一と聖神の體合とを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

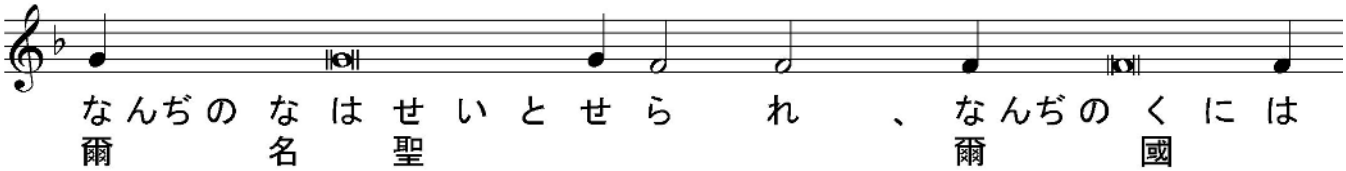


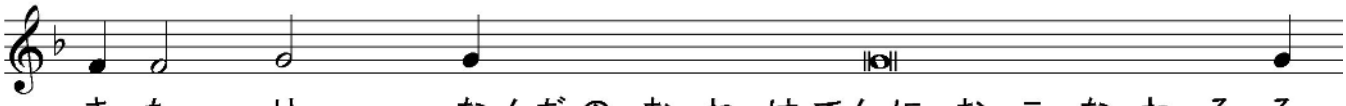
司祭）（　默誦：人を愛する主宰よ、我等は我が悉くの生命と望とを爾に委ねて、願い祈り切に求む、我等に、淨き良心を以て、爾が天上の畏るべき機密、此の聖せられたる屬神の筵に與るを賜いて、此れが罪の赦、過の宥、聖神の體合、天國の嗣業、爾に於ける勇敢となりて、審案或は定罪とならざるを致させ給え、　）

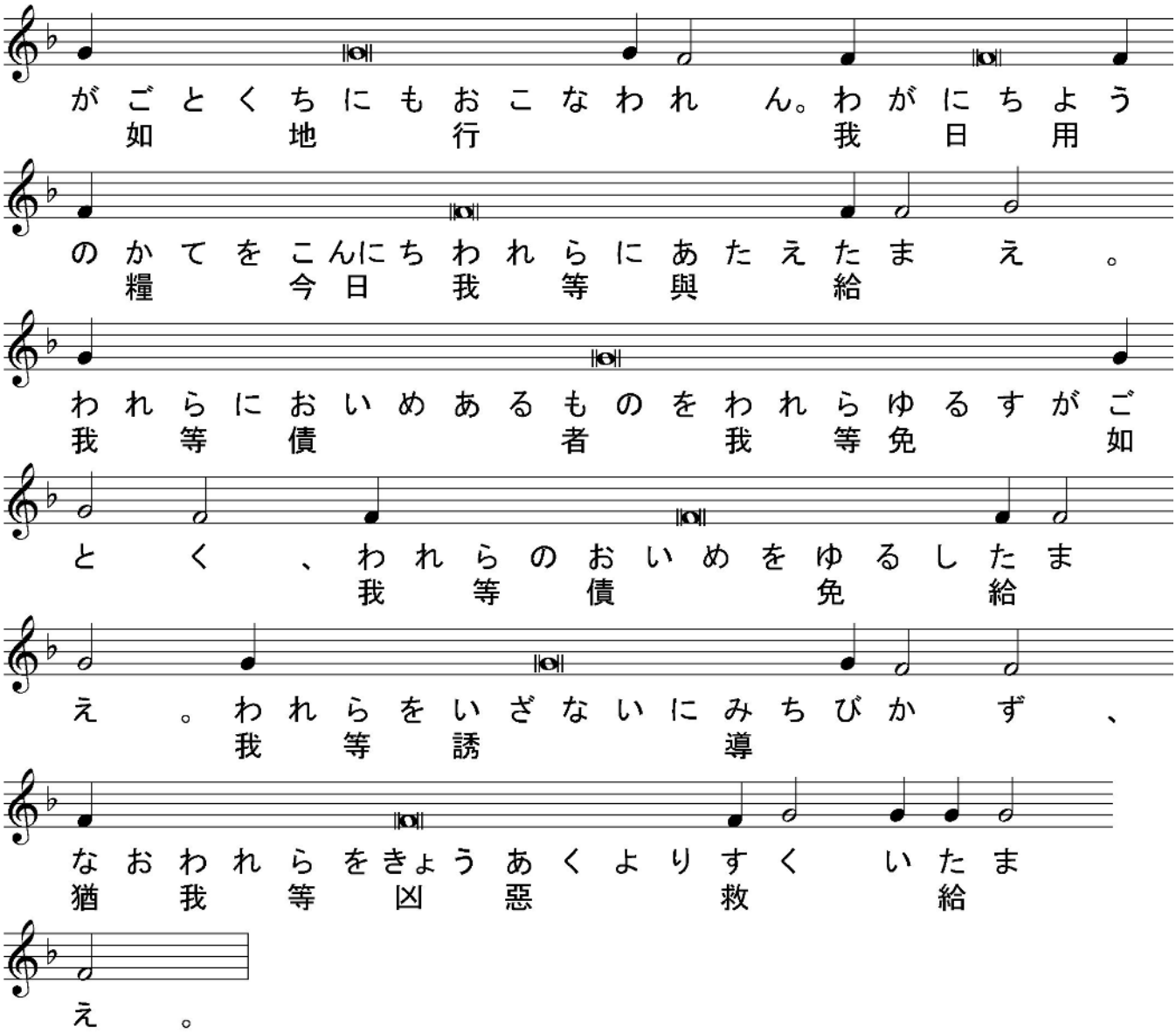
【　天主經　】

司祭）主宰よ、我等に勇を以て、罪を獲ずして、敢て爾天の神父を籲びて言うを賜え、

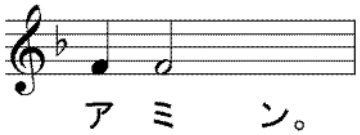




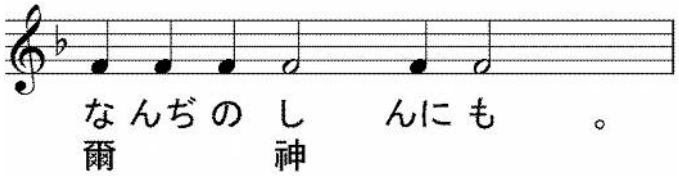




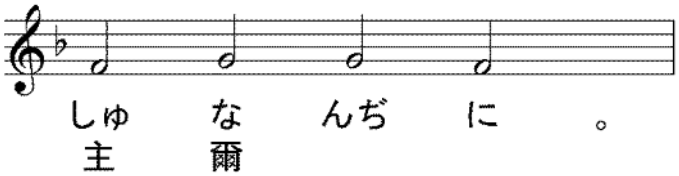
司祭） 蓋國(けだしくに)と權能(けんのう)と光榮(こうえい)は爾父(なんぢちち)と子(こ)と聖神(せいしん)に歸(き)す、今(いま)も何時(いつ)も世世(よよ)に、



司祭） 衆人(しゅうじん)に平安(へいあん)、

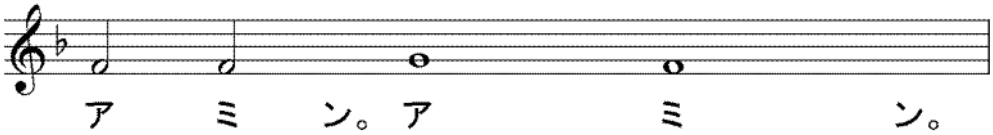


司祭） 爾等(なんぢら)の首(こうべ)を主(しゅ)に屈(かが)めよ、



司祭)（ 黙誦：見る可からざる王、其量り難き能力を以て萬有を畫定し、其慈憐の多きを以て萬物を無より有となしし主よ、我等爾に感謝す、主宰よ、爾親ら爾に首を屈めし者を天より顧み給え、蓋血肉に屈めしに非ず、乃爾畏るべき神に屈めり、故に主宰よ、爾は此に奠えたる者を、我等衆人の善の爲に、各人の必要に應じて等く頒ち、航海する者と偕に航海し、旅行する者と偕に旅行し、靈體の醫師として、病を患うる者を醫し給え、 ）

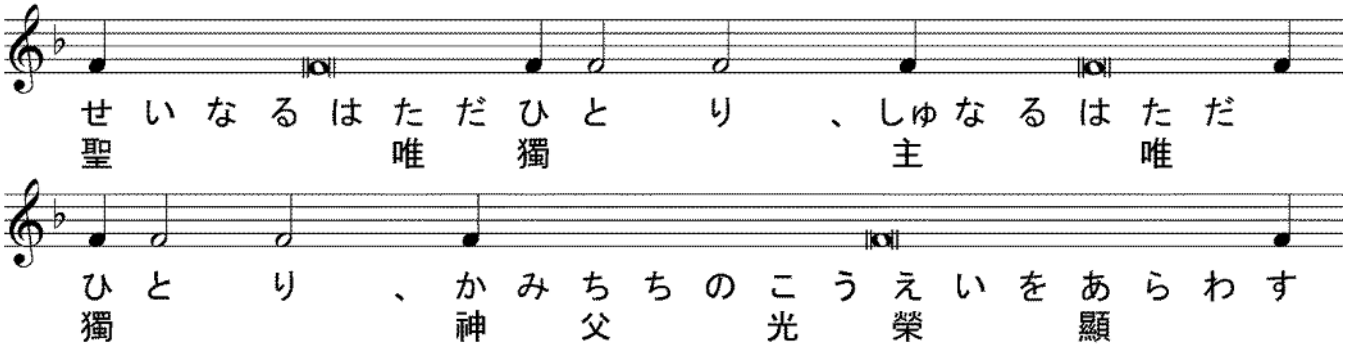
司祭) **爾が獨生子の恩寵と慈憐と仁愛とに因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に讃揚せらる、今も何時も世世に**

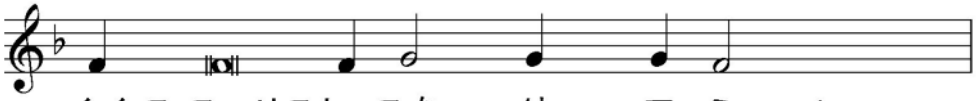


司祭)（ 黙誦：主イイススハリストス我等の神よ、爾の聖なる住所と爾が國の光榮の寶座より眷み給え、上には父と偕に坐し、此には見えずして我等と偕に居る者よ、來りて我等を聖にし、爾の權能の手を以て、爾が至淨の體と至尊の血とを我等に授け、又我等を以て衆人に授け給え、

神よ我罪人を淨めて、我を憐み給え、神よ我罪人を淨めて、我を憐み給え、神よ我罪人を淨めて、我を憐み給え、 ）

司祭) **謹みて聽くべし、聖なる物は聖なる人に、**





司祭）（ 黙誦：神の羔は剖かれ分たる、彼は剖かれて分離せず、恒に食われて永く盡き

ず、乃領くる者を聖にす、 ）

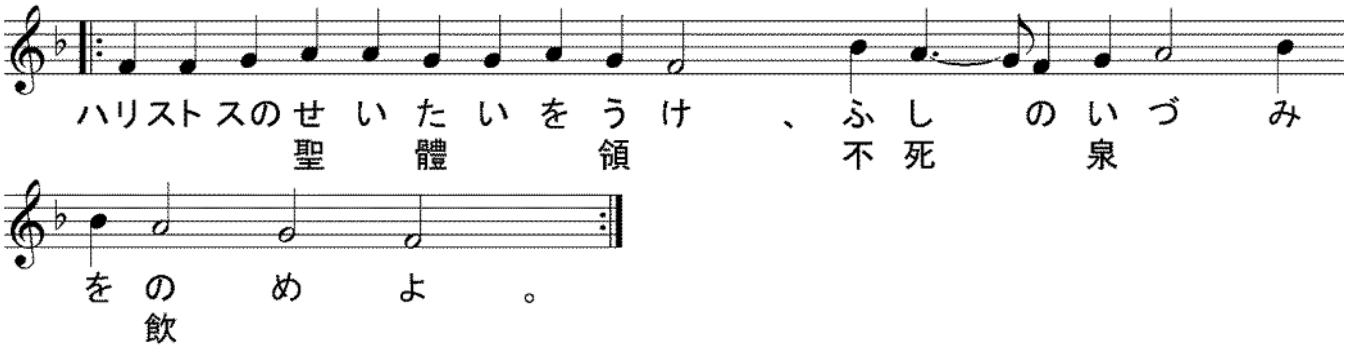
※信徒領聖まで、聖歌指揮者の指示に随って歌うこと。

（ 奉事規程が指定しているのは『主日領聖詞』、すなわち第１４８聖詠の第一節を繰り返し歌い、間に２節以下をアンティフォン形式で歌う、若しくは誦經する。本来は神品領聖と信徒領聖に区別はないので、同じ領聖詞を使う。日本正教会では通年「大パスハ領聖詞」を歌うことが多い。

日本正教会では神品領聖時に『主日領聖詞』に代えて、早課イルモス（其の週の調、又は生神女のカタワシヤ等）、スティヒラ等を歌うことが多いが、これに奉事規程上の根拠はない。

歌えるものがない場合は、聖詠經を誦經しても良い。 ）

【 （大パスハ）領聖詞 】



【 信徒領聖 】

司祭）神を畏るる心と信とを以て近づき來れ、

全員）主よ我信じ、且つ承け認めて、爾を實にハリストス生活の神の子、罪人を救うが

爲に世に來りし者となす、衆罪人の中我第一なり、又信ず、此れは乃 爾が至

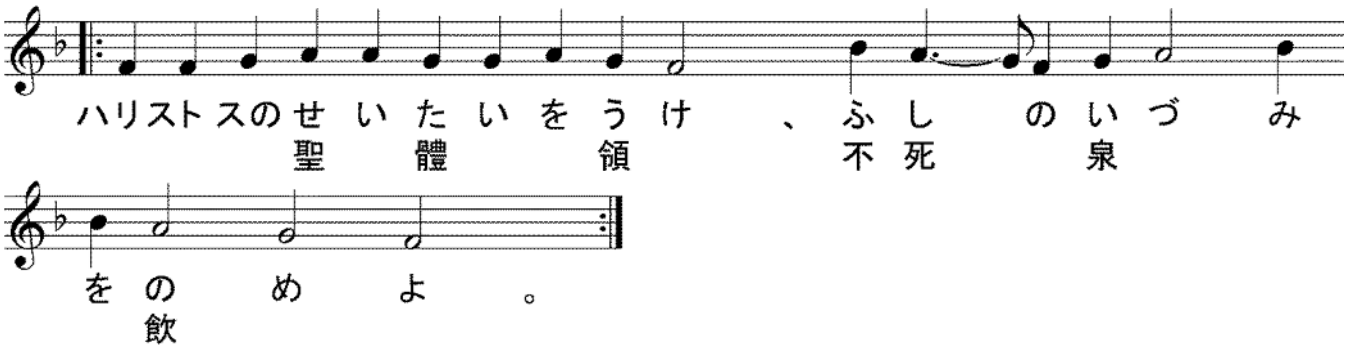
淨の體、此れは乃 爾が至尊の血なりと、故に爾に祈る、我を憐み、我が自由

と自由ならずして、言と行にて、知ると知らずして、犯しし諸罪を赦し給え、並に我に定罪なく、爾が至淨なる機密を領けて、罪の赦しと永生とを得るを致させ給え、アミン。

神の子よ、今我を爾が機密の筵に與る者として容れ給え、蓋我爾の仇に機密を告げざらん、また爾にイゥダの如き接吻を爲さざらん、乃右盗の如く爾を承け認めて曰う、主よ、爾の國に於て我を記憶せよと、主よ、祈る爾の聖なる機密を領くるは、我が爲に審案或は定罪とならず、すなわち靈體の醫とならんことを、

【　（大パスハ）領聖詞　】

※　全員が領聖し畢り、元の位置に戻るまで繰り返す。



司祭）（　黙誦：ハリストスの復活を見て、聖なる主イイスス・獨罪なき者を拜むべし、ハリストスよ、我等爾の十字架を拜み、爾の聖なる復活を歌い讃む、爾は我等の神なればなり、爾の外他の神を知らず、唯爾の名を稱う、信者よ、皆來りてハリストスの聖なる復活を拜むべし、十字架にて喜は全世界に臨めばなり、我等恒に主を讃め揚げて、其復活を崇め歌わん、主は十字架に釘うたるるを忍びて、死を以て死を亡ししによる、

新なるイェルサリムよ、光り光れよ、主の光榮爾に輝けばなり、シオンよ、今祝いて樂めよ、爾も潔き生神女よ、爾が生みし主の復活を歡び給え、

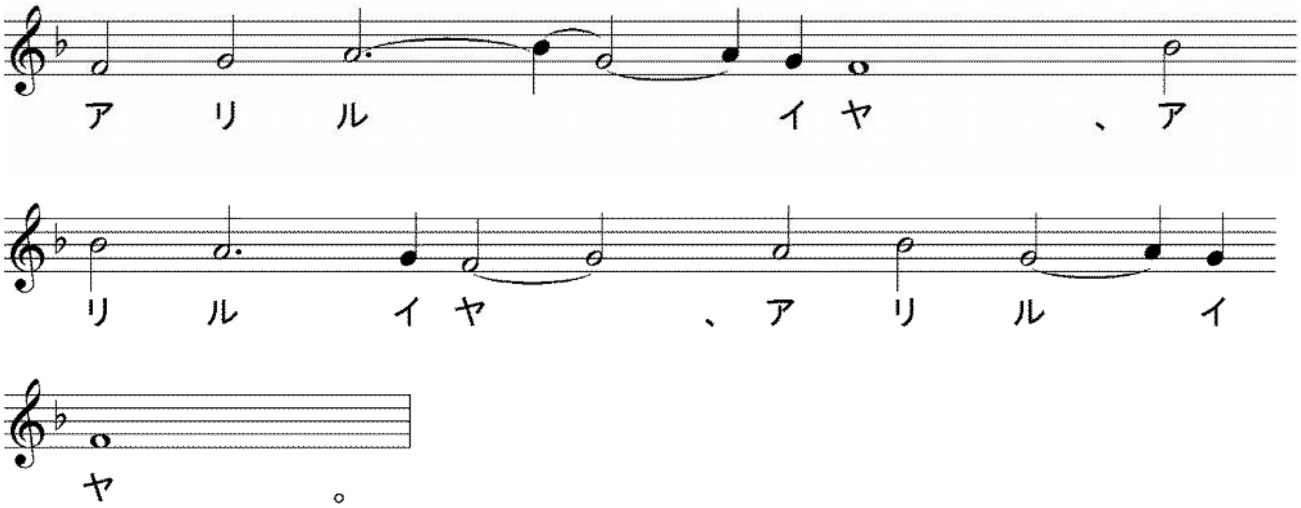
嗚呼大にして至聖なるパスハ・ハリストスよ、嗚呼智慧と神の言と能力よ、爾

が國の暮れざる日に於て、我等に猶親く爾を領けさせ給え

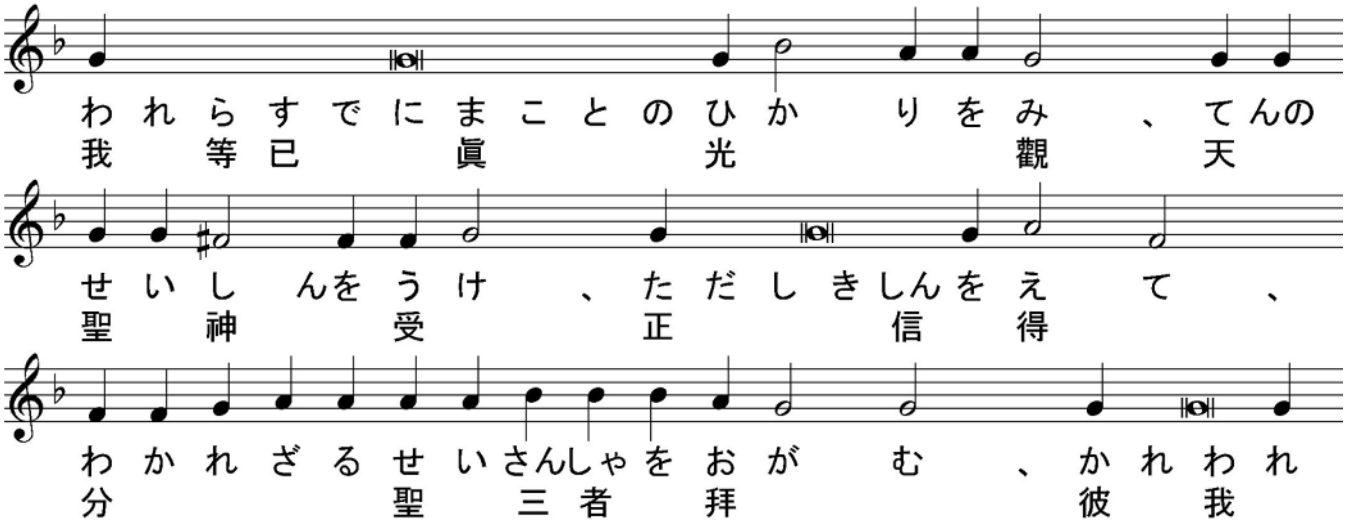
主よ、爾が至尊の血を以て、爾が諸聖人の祈禱に因りて、此に記憶せられし者の諸罪を滌い給え、

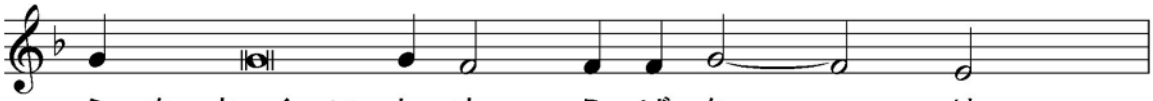
人を愛する主宰、我が靈の恩主よ、我等に、此の日に於ても、爾が天上の不死の機密を領けさせ給いしを爾に感謝す、我等の途を直くし、我等衆人を爾を畏るるの畏れに堅固にし、我等の生命を護り、我等の歩を固め給え、光榮なる生神女・永貞童女マリヤ及び爾が諸聖人の祈と願とに因りてなり、　）

※　全員が元の位置に戻って歌う準備ができてから「アリルイヤ」を歌う。



司祭）神よ、爾の民を救い、及び爾の嗣業に福を降せ、

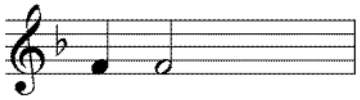




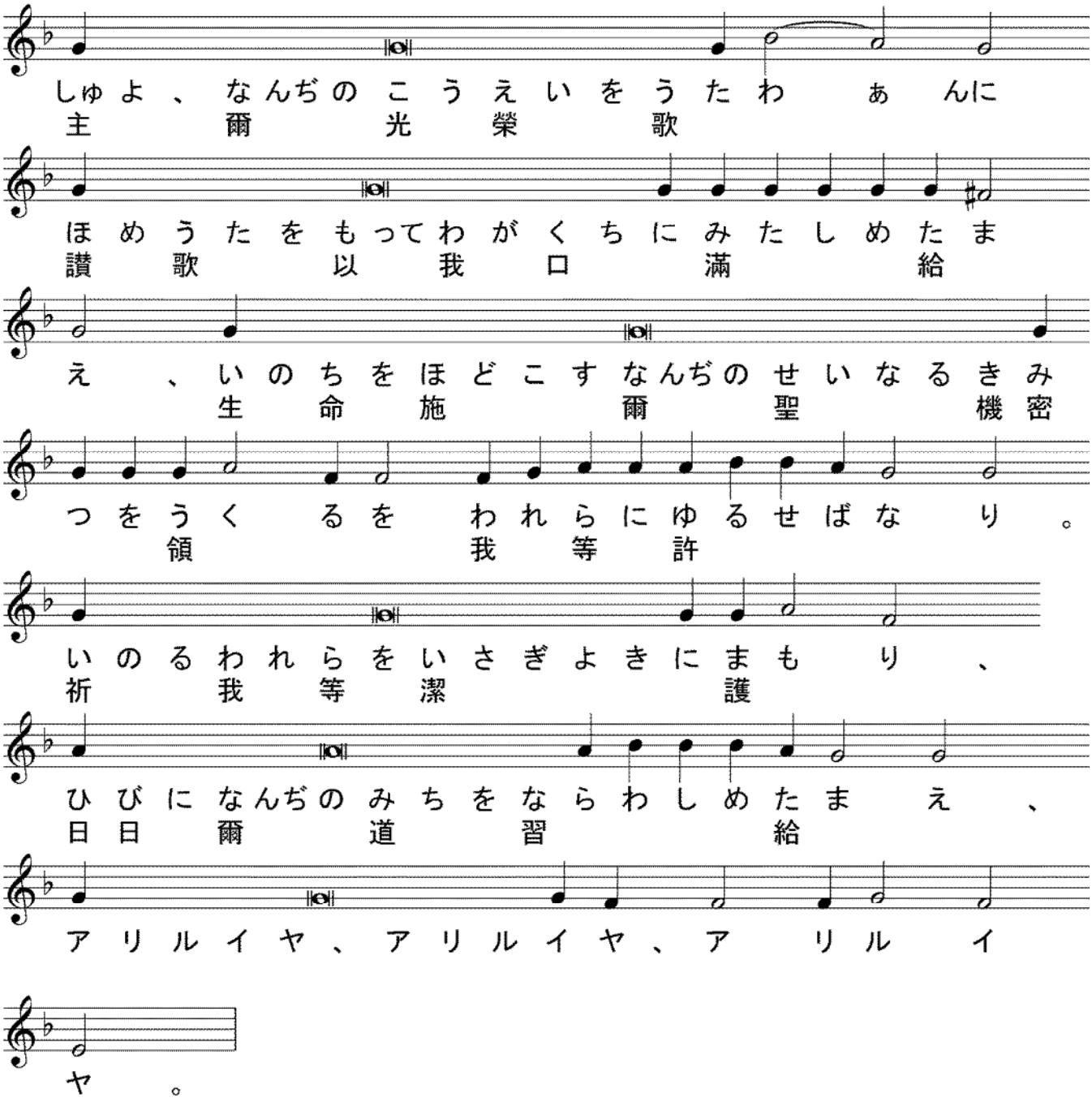
ら を す く い た ま え ば な り 。
等 救 給

司祭)（ 黙誦：神よ、願くは爾は諸天の上に擧げられ、爾の光榮は全地を蔽わん、我等の神は恒に崇め讃めらる、 ）

司祭) 今も何時も世世に、



ア ミ ン。



しゅよ、なんぢのこうえいをうたわぁんに
主 爾 光 榮 歌

ほめうたをもってわがくちにみたしめたま
讃 歌 以 我 口 満 給

え、いのちをほどこすなんぢのせいなるきみ
生 命 施 爾 聖 機 密

つをうくるをわれらにゆるせばなり。
領 我 等 許

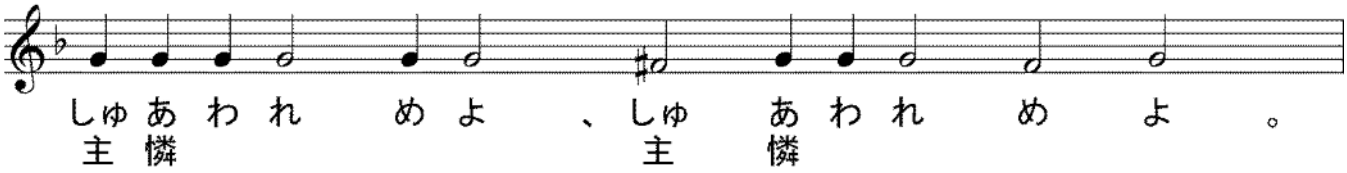
いのるわれらをいさぎよきにまもり、
祈 我 等 潔 護

ひびになんぢのみちをならわしめたまえ、
日 日 爾 道 習 給

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイ

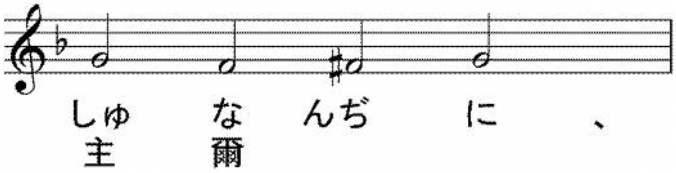
ヤ。

司祭）謹みて立て、神聖・至淨・不死にして生命を施す天上の畏るべきハリストスの聖機密を領けて、宜しく主に感謝すべし、

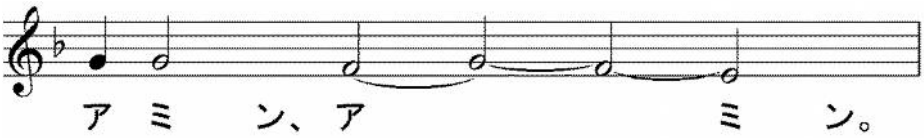


司祭）神よ、爾の恩寵を以て我等を佑け救い憐み護れよ、

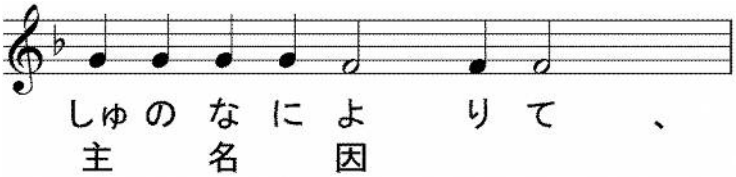
司祭）此の日の純全・成聖・平安・無罪ならんことを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



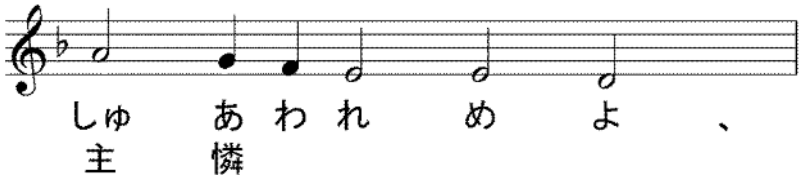
司祭）蓋爾は我等の成聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、



司祭）平安にして出づべし、

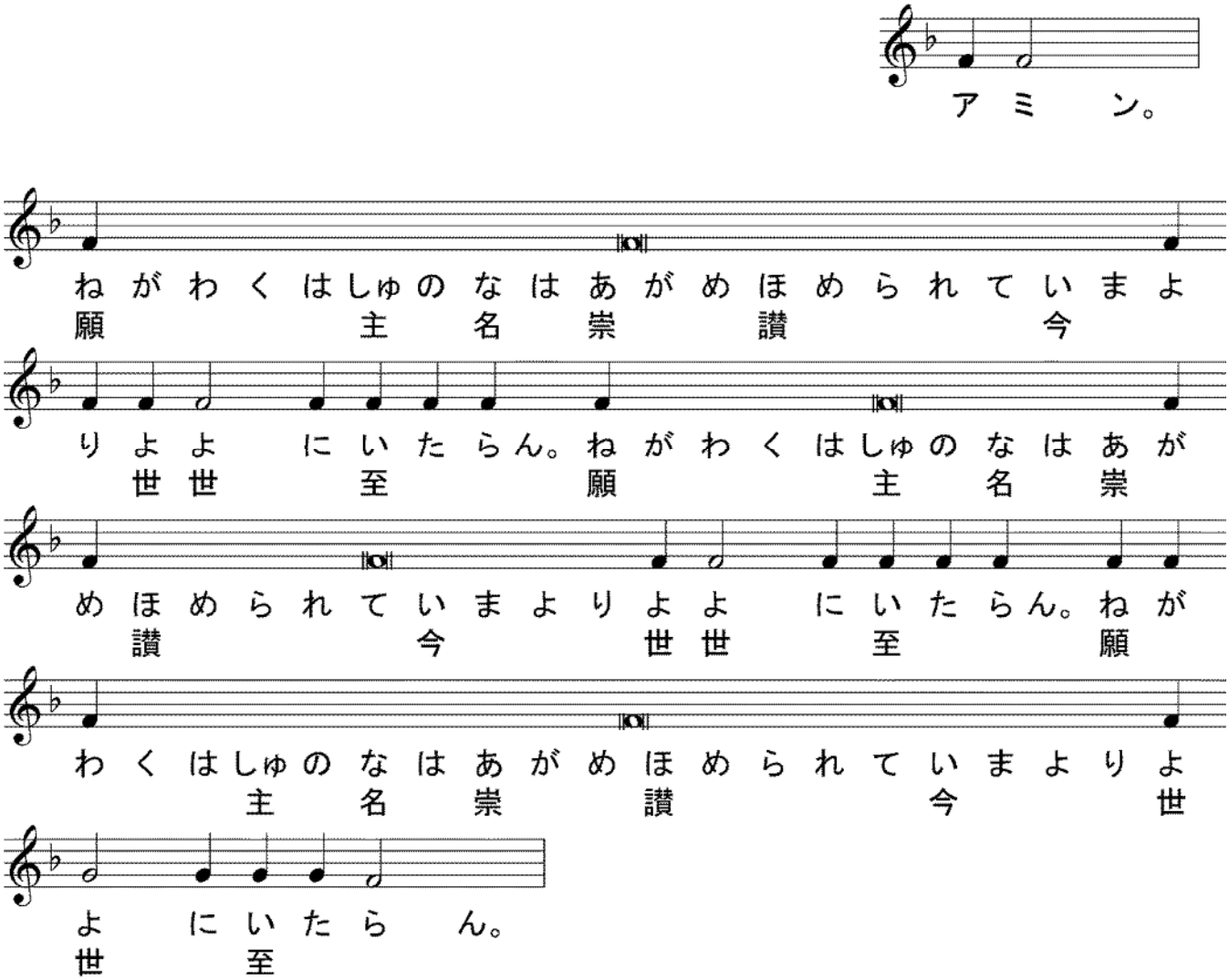


司祭）主に禱らん、



司祭）爾を讚揚する者に福を降し、及び爾を恃む者を聖にする主よ、爾の民を救い、及び爾の嗣業に福を降し、爾が教會の充滿を守り、爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ、爾が神聖の力を以て彼等を光榮し、及び我等爾を恃む者を遺す勿れ、爾の世界と爾の諸教會と諸司祭と、我が國の天皇及び國を司る者及び爾の衆人に平安を賜え、蓋凡の善なる施、凡の全備なる

賜は、上より、爾光明の父より降るなり、我等光榮・感謝・伏拜を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、



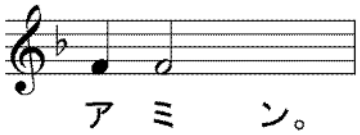
誦經）我何れの時にも主を讃め揚げん、彼を讃むるは恒に我が口に在り、我が靈は主を以て誇らん、温柔なる者は聞きて樂しまん。我と偕に主を尊め、偕に彼の名を崇め讃めん。我嘗て主を尋ねしに、彼は我に聆き納れて、我が都ての危きより我を免れしめ給えり。目を擧げて彼を仰ぐ者は照されたり、彼等の面は愧を受けざらん。此の貧しき者呼びしに、主は聆き納れて、之を其悉くの艱難より救えり。主の使は主を畏るる者を環り衛りて、彼等を援く。味えよ、主の如何に仁慈なるを見ん、彼を恃む人は福なり。凡そ主の聖人よ、主を畏れよ、蓋彼を畏るる者は乏しきことなし。少き獅子は乏しくして餓え、唯主を尋ぬる者は何の幸福にも缺くるなし。

司祭）（黙誦：親ら法律と諸預言者との成滿にして、父の定制を悉く成滿せ

しハリストス我が神よ、常に我等の心を喜と樂とに成滿せしめ給え、

今も何時も世世に、　）

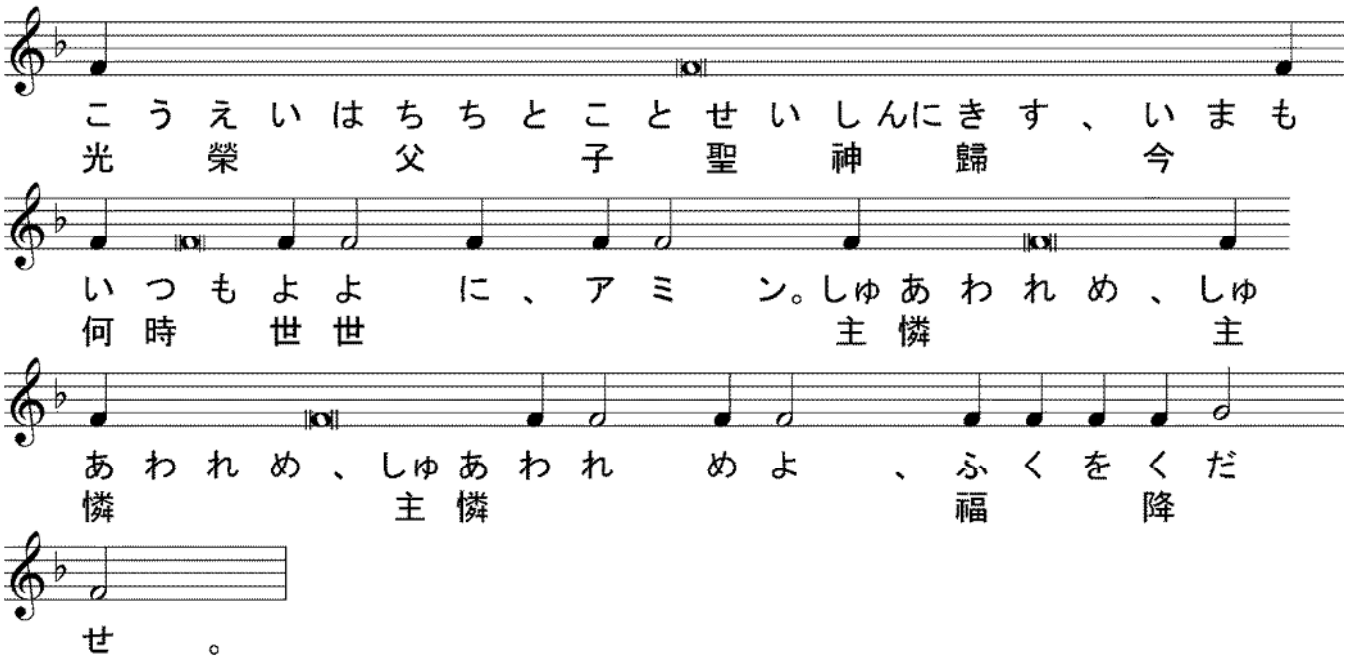
司祭）願くは主の降福は、其恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、



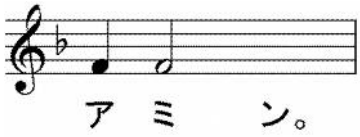
※ もし永眠者記憶を続けて行う場合はP33【　永眠者の爲の熱衷祈祷　】に飛ぶ。

【　通常の終結　】

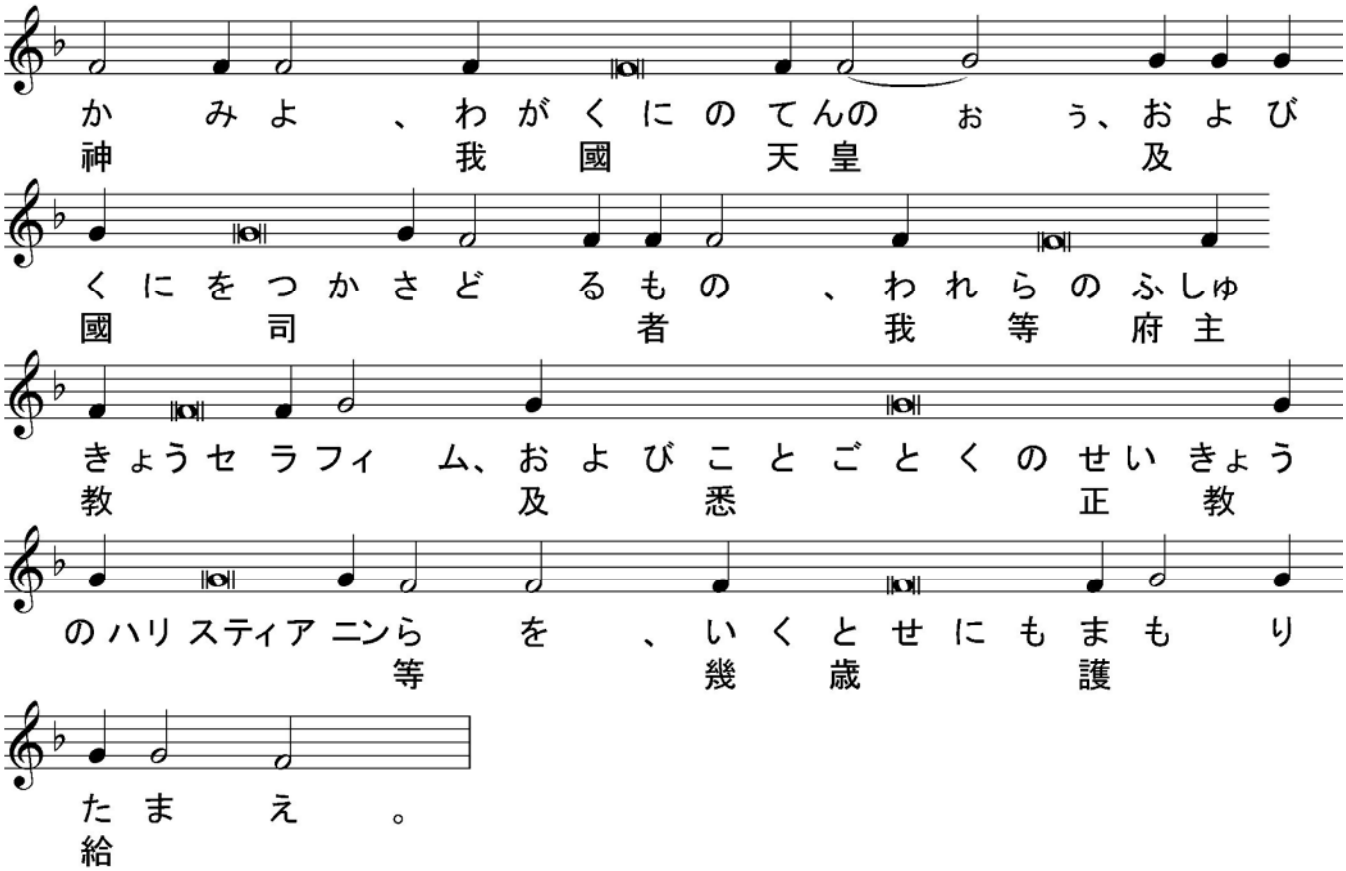
司祭）ハリストス神我等の恃よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、



司祭）死より復活せしハリストス我等の眞の神は、其至淨なる母、光榮にして讃美たる聖使徒、我等の聖神父コンスタンチノーポリスの大主教聖金口イォアン、克肖捧神なる我諸神父、（　某　）及び諸聖人の祈禱に因て我等を憐み給わん。善にして人を愛する主なればなり、

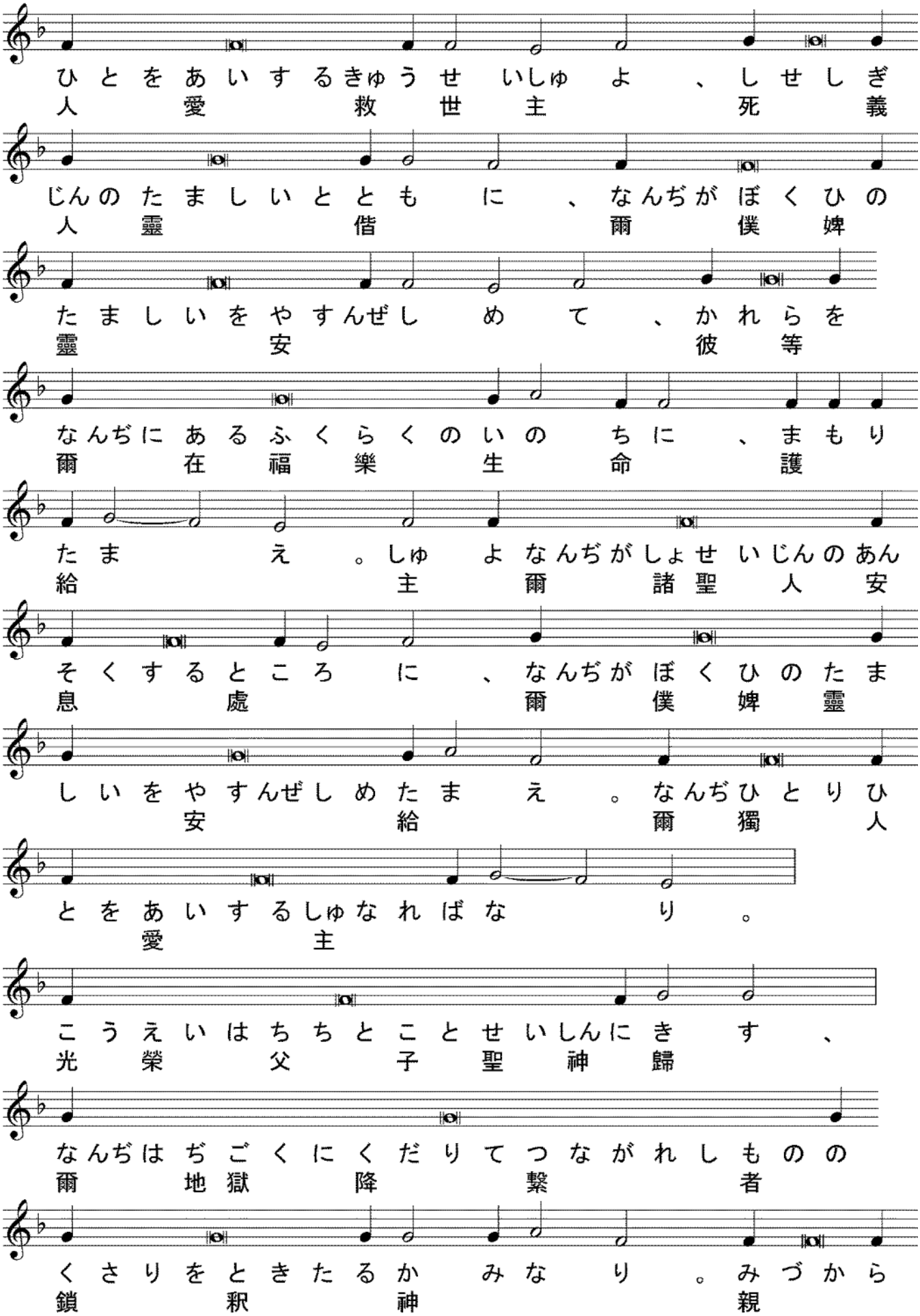


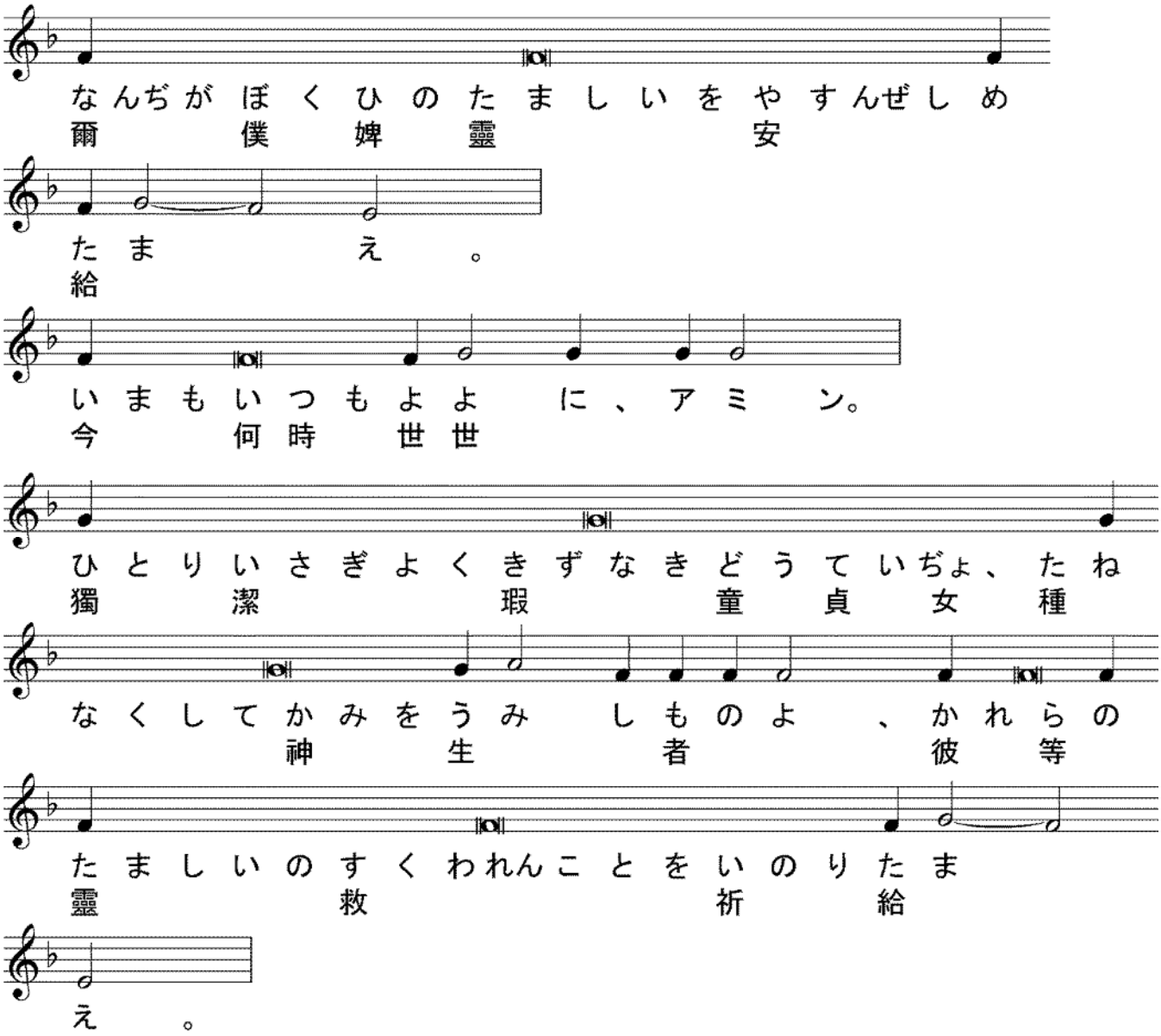
【　萬壽詞　】



（　祈祷終了、十字架接吻　）

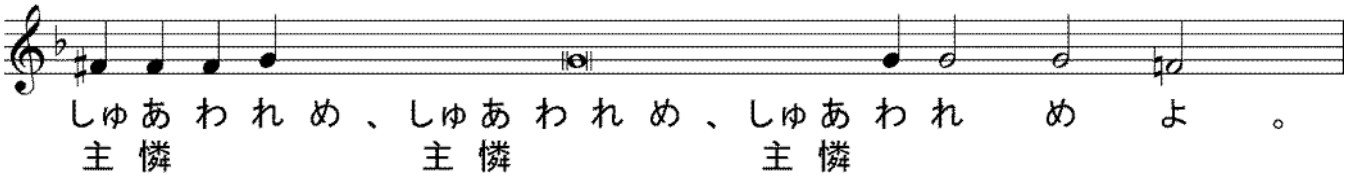
【　永眠者の爲の熱衷祈祷（リティヤ）　】



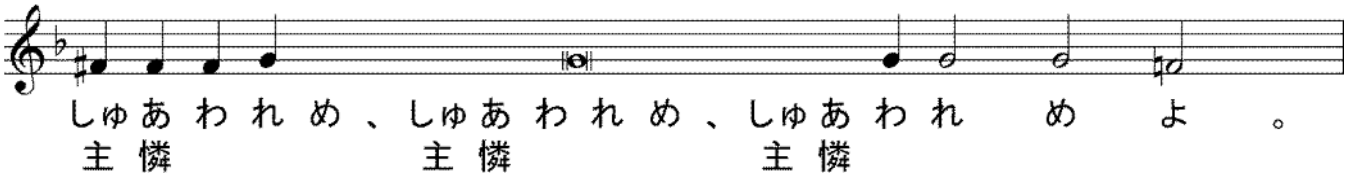


【 重聯禱 】

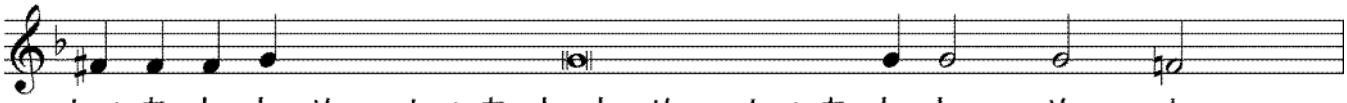
司祭）神よ、爾の大なる憐に因て我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、



司祭）又寢りし神の僕婢(某)の靈の安息の爲、及び彼等に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんが爲に禱る、

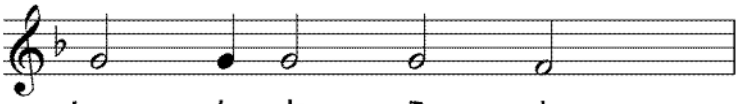


司祭）主神が彼等の靈を諸義人の安息する處に入れ給わんことを禱る、



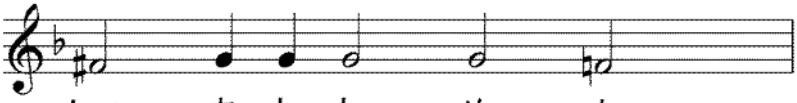
しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。
主憐　主憐　主憐

司祭）彼等に神の憐と天國と諸罪の赦とを賜わんことを、ハリストス我死せざる王及び神に願う、



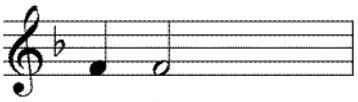
しゅたまえよ。
主賜

司祭）主に禱らん、



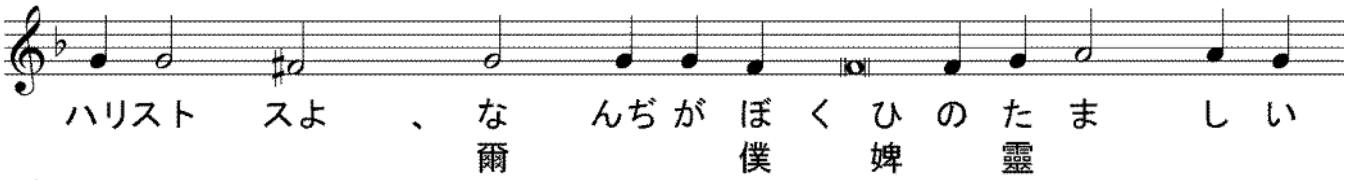
しゅあわれめよ。
主憐

司祭）諸の靈神と諸の肉體との神、死を亡ぼし惡魔を虚くし、爾の世界に生命を賜いし主よ、爾親ら寢りし爾の僕婢(某)の靈を光る處、茂き草場、平安の處、病と悲と歎との遠ざかる處に安息せしめ、善にして人を愛する神なるに因て彼等が或は言、或は行、或は思にて犯しし悉くの罪を赦し給え。蓋人一も生きて罪を行わざる者なし、唯爾は罪なし、爾の義は永遠の義、爾の言は眞實なり。蓋ハリストス我等の神よ、爾は寢りし爾の僕婢(某)の復活と生命と安息なり。我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに獻ず、今も何時も世世に、

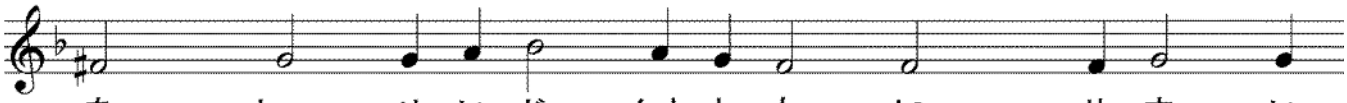


アミン。

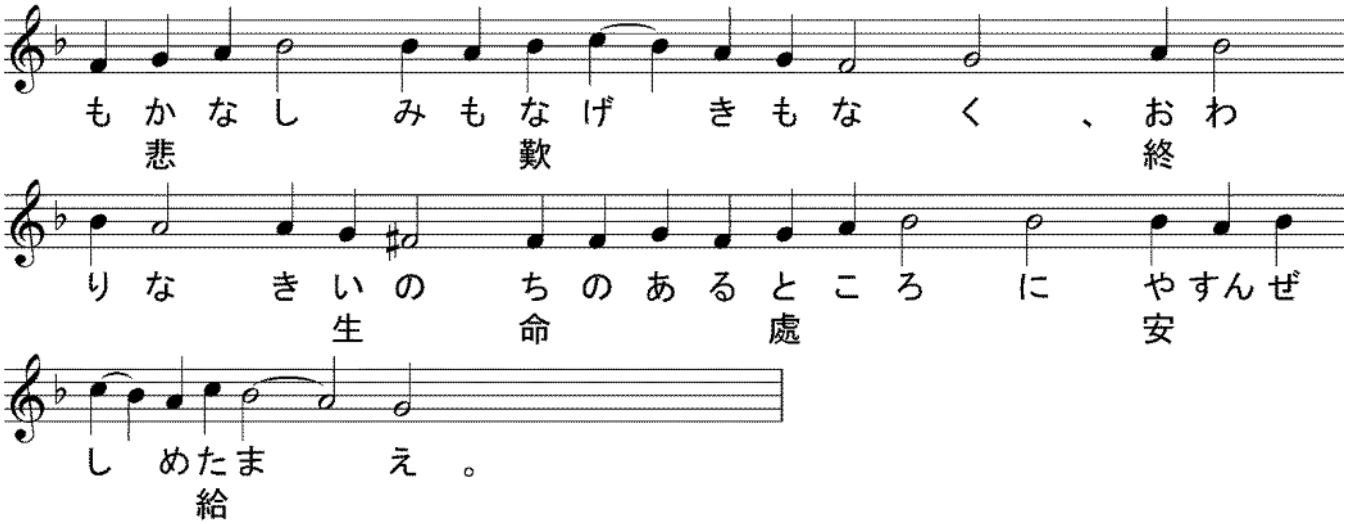
【　永眠者の爲の小讃詞（コンダック）　】



ハリストスよ、なんぢがぼくひのたましい
爾僕婢靈

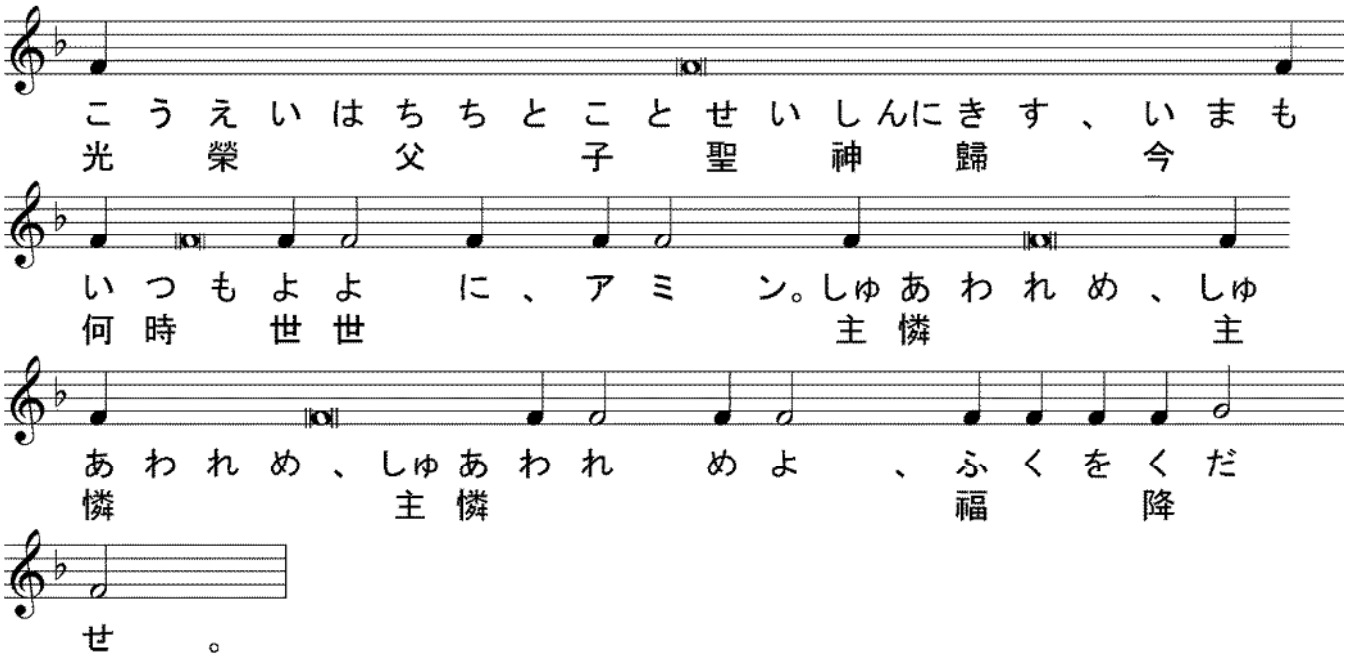


を、しょせいじんとともに、やまい
諸聖人偕疾

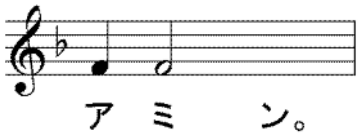


【　終結　】

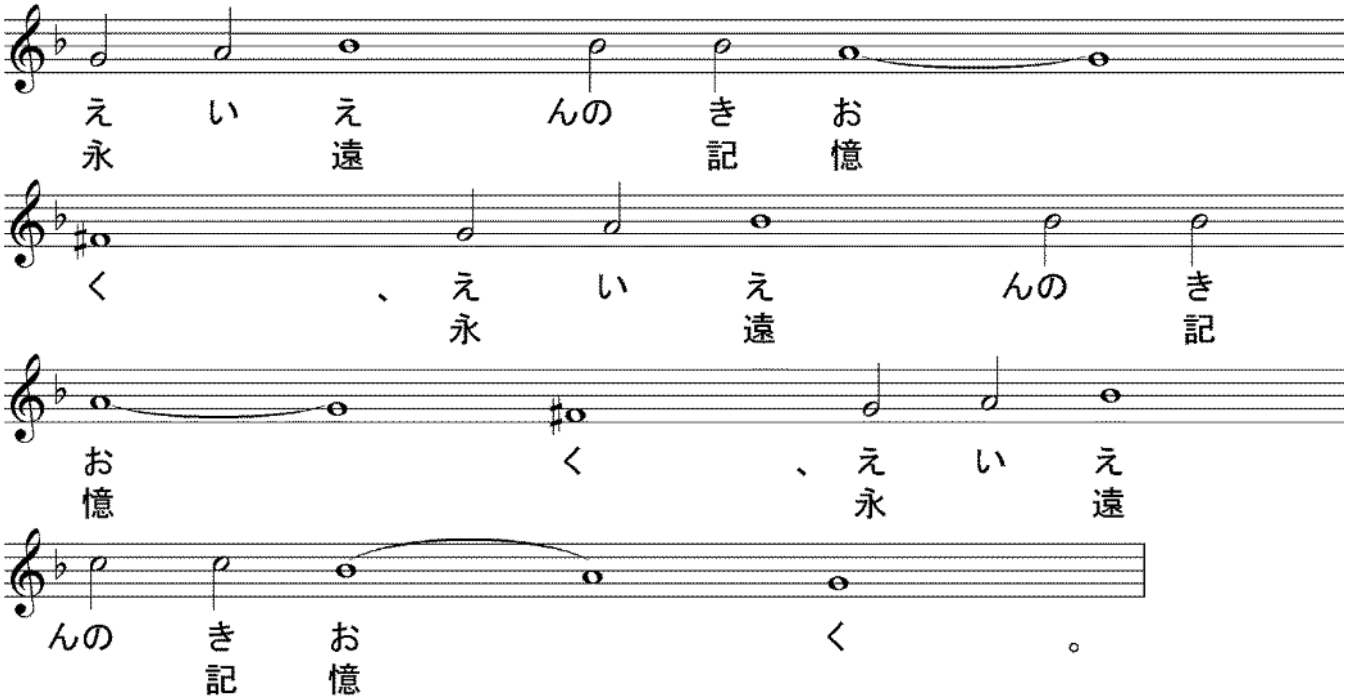
司祭）ハリストス神我等の恃よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、



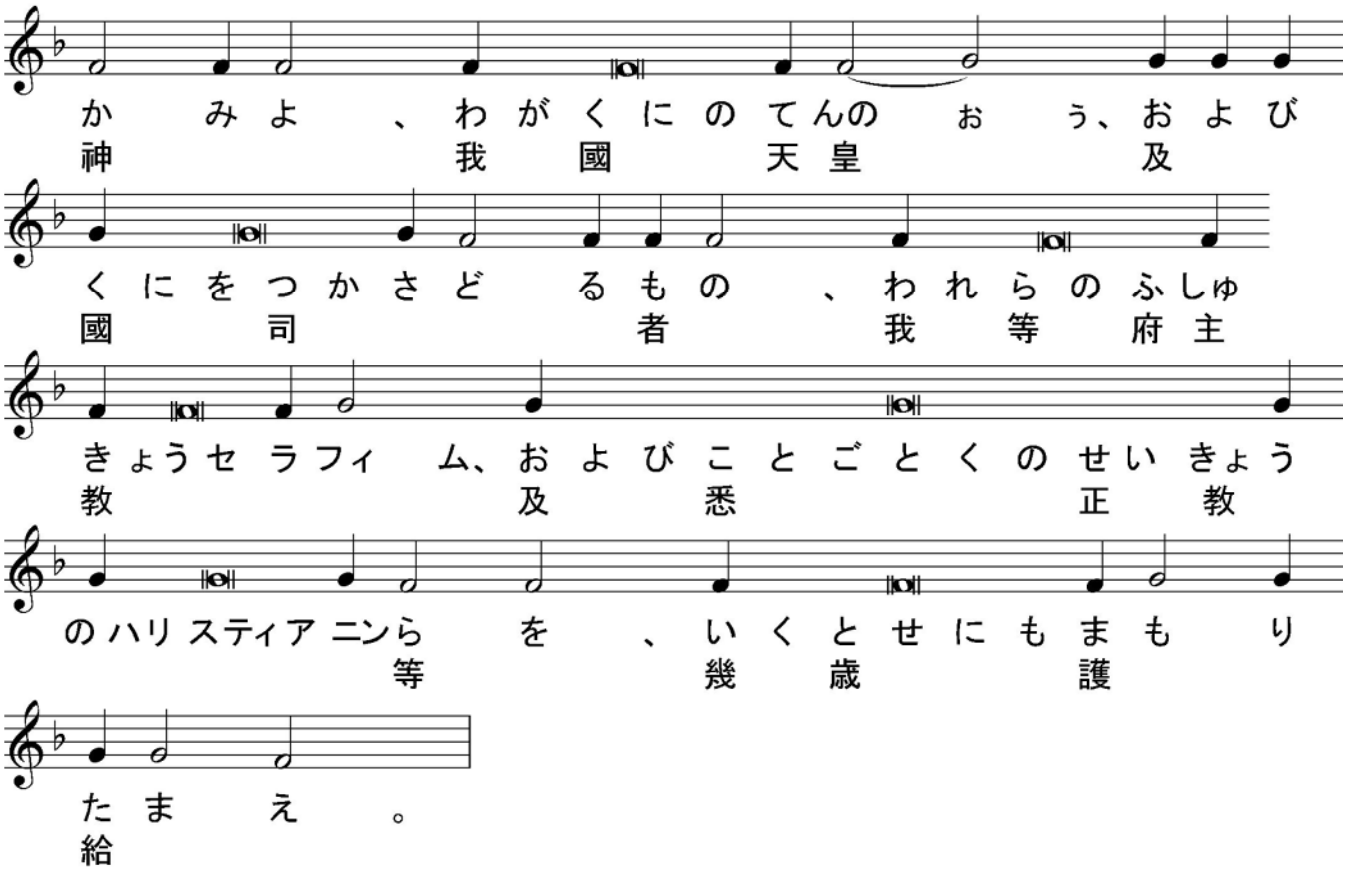
司祭）死より復活し、生ける者と死せし者を其全能の手に保ち給うハリストス我等の眞の神は、其至浄なる母、光栄にして讃美たる聖使徒、克肖捧神なる我諸神父、（　某　）及び諸聖人の祈禱に因て、寝りし僕婢(某)の靈を諸義人の住所に入れ、アブラアムの懐に安んぜしめ、諸義人の列に加え、及び我等を憐み給わん。善にして人を愛する主なればなり、



司祭) 主よ、爾の僕婢(某)の福なる寝に永遠の安息を與え、彼等に永遠の記憶を爲し給え、



【 萬壽詞 】



(祈祷終了、十字架接吻)

【 領聖感謝祝文 】

神や光榮は爾に歸す、神や光榮は爾に歸す、神や光榮は爾に歸す、

【 第一祝文 】 主我が神や、爾我罪人を棄てずして、尚爾の聖なる機密に與る者と致させ給うを爾に感謝す、我堪えざる者に爾が至淨なる天の賜を受くるを容し給うを爾に感謝す、主宰・人を愛する主、我等の爲に死して復活し、我が靈と體とに恩を與え、之を聖にするが爲に、我等に此の恐る可くして生命を施す機密を賜いし者や、求む此の機密は、我にも靈と體とを癒し、凡の敵の害を驅り、我が心の目を明かにし、我が靈の力を平安にし、耻を得ざる信とし、僞なき愛とし、睿智を充たし、爾の誡を守らしめ、爾が神聖の恩寵を益し、爾の國を嗣がしむる者となるを得せしめ給え、我は此くの如く、是の機密にて爾の成聖に護られ、常に爾の恩寵を思い、復己が爲に生活せず、乃爾我が主宰及び恩主の爲に生活し、以て永生の望を懷き、此の世を離れて、永遠の息、彼の祝する者の絶えざる聲、及び爾が顏の言い盡されぬ美善を見る者の限りなき樂の處に至らん、蓋ハリストス我が神や、爾は爾を愛する者の眞の望と言い盡されぬ樂なり、凡そ造を受けし者は爾を世世に讃め歌う、

「アミン」

【第二祝文 聖大ワシリイの原文】 主宰ハリストス神、萬世の王、萬物の造成者や、凡そ我に賜いし所の諸善、且生命を施す至淨なる爾の機密を領けさせ給いしを爾に感謝す、又爾に祈る、善にして人を愛する主や、我を爾が庇の下に、爾が翼の蔭に護り、我に呼吸の絶えんとするに至る迄、潔き良心を以て、當然に爾の聖體聖血を領け、以て罪の赦と永生とを得るを致させ給え、蓋爾は生命の糧、成聖の泉、諸善を賜う主なり、我等爾と父と聖神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、「アミン」

【 第三祝文 聖シメヲン「メタフラスト」の原詩 】 我が造成主、甘じて己の身を糧と

して我に與え、火にして不當者を焚く者や、求む我を焚く毋れ、乃吾が百體諸節心腹に入り、吾が諸罪の棘を焚き、靈を淨め、思を聖にし、筋と骨とを固め、五官を明かにし、吾が全身を、爾を畏るる畏に釘うち、常に我を庇い、我を保ち、我を靈を害する諸の行と言とより護り、我を淨め、我を滌い、我を飾り、我を治め、我を啓き、我を照し、我が復罪の住所たらずして、獨爾が聖神の住所たるを顯し、凡の悪者凡の慾は、我聖體の入るに依りて爾の家となりし者より逃ぐること、火より逃ぐるが如くならしめ給え、我其轉達者として、諸の聖者、諸品の神使、爾の前驅、智慧なる使徒、及び爾が無玷至淨の母を爾に進む、慈憐の主我がハリストスや、彼等の祈禱を容れて、爾の役者を光の子となし給え、蓋獨至善の主や、爾は我等の靈の成聖と光明なり、我等皆神と主宰に宜しき所の如く、日日に光榮を爾に獻ず、

【 第四祝文 】 主イイススハリストス我等の神や、願くは爾の聖體は、我が爲に永生となり、爾の尊血は、罪の赦とならん、願くは此の感謝の祭は、我が爲に喜悦と壯健と安樂とならん、又畏る可き爾が再度の降臨の時、我罪人に、爾が光榮の右に立つを得せしめ給え、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に依りてなり、

【 第五祝文 至聖生神女に捧ぐ 】 至聖なる女宰・生神女、我が昧みたる靈の光、吾が憑恃と皏幪と避所と慰藉と歡喜や、爾が我堪えざる者に、爾の子の至淨の體至尊の血を領くる者となるを得せしめ給いしを爾に感謝す、猶祈る、眞の光を生みし者や、吾が心の靈目を明にせよ、不死の泉を生みし者や、我罪に殺されたる者を生かし給え、慈憐なる神の慈愛の母や、我を憐み、吾が心に傷感と悲痛、吾が思に謙遜、吾が虜となりし意念に呼還を賜い、我に呼吸の絶えんとするに至るまで、罪を獲ずして、至淨なる機密の成聖を受けて、靈と體との醫を得るを致し、並に我に痛悔と承認との涙を與えて、生涯爾を歌頌讃榮せしめ給え、蓋爾は世世に讃美と光榮とを満ち被る、「アミン」

2023年 9月29日 改 訂